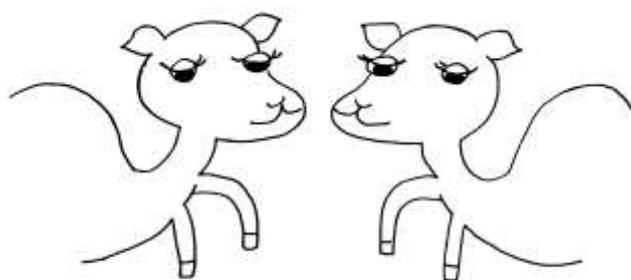


平成25(2013)年度

市民活動センターたちかわ 事業報告



ひら
市民社会を拓きたい



◆問合せ◆

社会福祉法人 立川市社会福祉協議会

市民活動センターたちかわ

〒190-0013 立川市富士見町 2-36-47

TEL:042-529-8323 FAX:042-548-1724

E-mail aiaivc@whi.m-net.ne.jp

<http://www.tachikawa-shakyo.jp/skct/>

(月)-(金) 8:30-19:00

(土) 8:30-17:00

※(日)・祝日はお休みです

◆行き方◆ 交通アクセス

(徒歩で行く) JR 立川駅北口より徒歩 15 分 または JR 西立川駅より徒歩 8 分

(バスで行く) 立川駅北口(10)(11)バス停より乗車「富士見町 2 丁目」下車～農道を通して 徒歩 3 分

(バスその2) くるりんバス みなみくるりん「総合福祉センター前」下車 徒歩 0 分

目 次

■はじめに	3
■1章 市民活動センターたちかわとは	
I.市民活動センターたちかわの使命と基本方針	4
II.立川のまちの特性	4
III.市民活動センターたちかわの描く「立川市民像」	5
IV.市民活動センターたちかわの主なサービス	5
V.市民活動センターたちかわの特色	7
■2章 平成 25 年度の活動	
I.1 年間の相談集計結果と分析	8
II.平成 25 年度 地域福祉コーディネーター活動報告	20
III.センター運営の活動の柱	41
1.市民参画の運営委員会によるセンター運営	41
2.協働の推進	44
3.地域づくり	50
4.市民活動支援	54
5.その他	61
IV.平成 25 年度の市民活動センター事業を振り返って	63
V.平成 26 年度に向けて	66
VI.平成 25 年度収支決算(概略)	67
■3章 資料	68
I.平成 25 年度登録団体	68
II.平成 25 年度登録サロン	75

※1章については、市民活動センターたちかわ運営委員で分担執筆しました。

はじめに

市民活動センターたちかわが誕生したわけは

社会制度の規制緩和や格差社会、少子高齢化といった人口構造や家族機能の変容など、社会環境が激しく変化している。

雇用環境の悪化やひきこもりなどの新たな社会問題が表出し、行政からの一律的サービスだけでは解決できない多様な生活課題も浮き彫りとなっている。

地球環境の変化による生命の危機が現実味を帯び、巨大災害も頻発している。

市民・行政・企業がそれぞれの力を引き出しあいながら、持続可能な社会を創っていかなければ、未来は構築できないことに私たち市民は気付きはじめています。

ひとりひとりの市民がどう社会に参画していくかが重要な時代である。

一方、阪神・淡路大震災を契機としたボランティア活動への関心の高まりや、NPO 法（特定非営利活動促進法）の制定、さまざまな市民活動団体の登場など、ボランティア・市民活動のあり様も多様化している。

こうしたことを背景に、センターに寄せられる相談や情報も実に幅広く多様となってきている。

期待される役割や事業、サービスのあり方も変化してきている。

多様性に応えられ、社会課題の解決に貢献し、たくさんの人と活動をつなぐ、市民にとって真に必要なセンターであるために、市民活動センターたちかわ（以下センターという）は、平成 15 年 4 月に「立川ボランティアセンター」から機能拡大をし、再スタートするに至った。

1 章 市民活動センターたちかわとは

I. 市民活動センターたちかわの使命と基本方針

【使命】

市民社会を拓きたい

【基本方針】

私たちは「市民」を、次のように思い描いています

- 1.自分で考えて行動する
- 2.社会のために行動する
- 3.地球のために行動する

私たちの考える市民社会とは、多様な人々が連携し、社会の課題解決に向けて取り組み、誰もが希望を持って生活できる社会である、と考えています。

II. 立川のまちの特性

○人口：立川市の人口は平成 25(2013 年)年 4 月 1 日現在で 178,327 人、世帯数は 84,893 世帯である。「立川市第 3 次長期総合計画 第 3 次基本計画」策定時に使用された平成 21(2009)年 1 月 1 日の住民基本台帳登録人口に基づく立川市の将来人口推計結果によると、立川市の人口は緩やかに増加を続け、平成 30(2018)年および平成 31(2019)年にピークを迎えるという見通しであった。しかしながら、増加を続けてきた立川市の人口は、平成 25(2013)年には昭和 58(1983)年以降初めて減少がみられた。^{※1}

今後の予測として、立川市の将来人口推計調査結果(平成 25 年 10 月)^{※2}によれば、平成 26 年から平成 27 年にピーク時期を迎え、以後平成 55 年まで減少を続けると想定されている。また、「年齢 3 階層別人口^{※1}」の推移では、平成 16(2004)～平成 25(2013)年にかけての年齢 3 階層別人口を参考にすると、年少人口(0～14 歳)はほぼ横ばいで推移し、また、生産年齢人口(15～64 歳)は平成 22(2010)年ごろまで横ばいで推移し、以降平成 25(2013)年まで微減となる。そして老年人口(65 歳以上)では緩やかに増加し、平成 25(2013)年には平成 16(2004)年の 1.4 倍となっている。人口割合では、老年人口の割合が増加傾向にあり、年少人口の割合は微減傾向であることから、少子化よりも高齢化の進行が進んでいることが伺える。

○面積：24.38 平方キロメートル。^{※3}

○地域的特色：東京都の中央西よりあって、都心から 40km 圏、東京駅から電車で 50 分程度の位置にあり、八つの市に隣接している。地形的には、市城南端の日野市との境に多摩川が流れ広々とした河川敷を構成し、河岸段丘崖に緑の多い傾斜地があるほかは、概ね平坦な地形である。市全域

が都市計画区域に指定されている。

また市内には JR 中央線など東西方向に 5 路線の鉄道が通るほか、多摩都市モノレールの開通により南北方向の交通も確保され、立川駅はあらゆる方向からのアクセスが容易な多摩地域の交通の中心となっている。その結果、立川駅を中心として商業・飲食施設や事務所施設などが集積、その周辺に密度の高い市街地を形成する一方、国営公園や市北部地域の農地・屋敷林・玉川上水など、緑とオープンスペースも比較的多く残されており、近代的な町並みと郊外的なうらおいが共存する、多様な面のある地域特性を持っている。^{※4}

資料出展：^{※1, 3, 4} 立川市ホームページより

^{※2} 立川市の『第 4 次長期総合計画のための将来人口推計調査』（平成 25 年 10 月）

Ⅲ. 市民活動センターたちかわの描く「立川市民像」

『市民意向調査報告書』（平成 25 年 3 月）によれば、立川市を「住みよい」または「どちらかという住みよい」と答えた人の合計が全体の 85.4%を占めており、さらに、今後の居住意向について回答の上位「当分の間、住んでいたい」と「永住したい」の両者を合わせるとほぼ 90%であり、過去の調査と比べて「永住したい」が増加し、市民の定住意向は強まっていることが窺える。^{※5}

また、同調査の中で地域コミュニティの推進について「参加している地域活動や催し」を尋ねた項目をみると、「自治会活動」（27.9%）、「趣味・娯楽などのグループ活動」（11.3%）、「スポーツなどのクラブ活動」（10.4%）、「PTA 活動」（7.6%）、「地域の清掃・美化活動」（6.8%）が上位 5 項目であるものの、「参加していない」が 50.8%と最も多い結果となっている。^{※5}

^{※5} 「立川市第 4 次長期総合計画」策定に向けて～平成 24 年 11～12 月に市民計 2000 人対象実施
定住意向の比率は高いが、一方で地域活動への参加が約半数にとどまっている、このような特色を持つ立川市民に対して、市民活動センターたちかわとしては今後に向けてどのような「立川市民像」を目指して事業を行っていくべきか。

私たちは、市民がお互いにつながっているという意識を拓いていくことを大切にしたいと考えた。ここでいう「つながり」とは、人々が自由な意思に基づき、協力し、助けあい、出会いを楽しみながら、自分たち自身で住みよいまち・社会を形成していくために必要なものである。

人々がつながりを形成している場としての、会社、学校、サークル、市民活動グループ・団体、地域自治会、PTA など、これまであるつながりに加え、新たなつながりをつくっていくことの出来る姿が、市民活動センターたちかわの描く市民像である。

Ⅳ. 市民活動センターたちかわの主なサービス

☆総合相談機能を持って、様々な市民活動の支援、サービスを行っています。

■『協働の推進』……（協働支援センターの機能）

○協働の仕組みづくり

・行政とNPOや企業とをつなぐコーディネート

○市民活動団体との協働事業や地域イベント開催を支援

- ・「ふれあいミュージックフェスティバル」
- ・「たちかわ楽市」
- ・各種企画委員会やプログラムへのスタッフ派遣等
- 企業のCSR(社会的責任)活動への支援
 - ・社員のボランティア活動コーディネート
 - ・新任研修への協力

■『地域づくり』……(地域活動支援センターの機能)

- 地域福祉コーディネーター
 - ・市内3地区(栄町・若葉町地区/上砂町・一番町・西砂町地区/錦町・羽衣町地区)に専任で配属し、地域課題の解決を支援
- 学校を核とした市民学習支援
 - ・市内の小中学校・高校、各種学校の授業プログラムを地域の住民や機関、市民活動団体とともに実施
 - ・教育機関や市民活動団体の連携を支援
- グッドネイバー運動推進団体の支援
 - ・「よき隣人」をキーワードに、小地域単位での住民主体のまちづくりを進める、市内4ヵ所(柴崎・栄・若葉・西砂一番)の団体の支援
- 地域懇談会の開催
 - ・地域懇談会では、「防災」や「ごみ対策」などをテーマにワークショップなどを開催しながら、住民同士の顔の見える関係づくりを進める。
- 「支えあいサロン」活動の支援

■『市民活動支援』……(ボランティアセンター・NPO支援センターの機能)

- 日々の市民活動に関する相談
 - ・「ボランティアしたい」「サポートしてくれる市民活動団体を探している」「NPO法人を立ち上げるにはどうしたらいいのか」「立川でイベントをするので広報周知してほしい」などの相談対応
- おもしろボランティア大学の開催
 - ・ボランティア活動を始めるきっかけとする講座の開催
- 市民活動体験プログラム
 - ・夏!体験ボランティア ・楽市案内人ボランティア
- 情報の受発信
 - ・ホームページの運営と管理 各団体の活動情報の発信
 - ・市民活動情報コーナーの設置
紙媒体による情報収集、インターネットでの情報検索ができるコーナーの運営
 - ・情報誌『市民活動センター★たちかわ通信』の発行
 - ・『市民活動センター登録団体紹介BOOK』及び『ボランティア紹介冊子』の発行
 - ・市民活動センターたちかわ登録団体や情報希望者との連携

○NPO法人設立ガイダンス

- ・NPO法の解説や法人化の意義、設立に向けた手順や事務についてのガイダンスを定例開催

○市民活動団体向け実務講座の開催

○市民活動団体マネジメント講座の開催

○活動資金の助成

- ・立川市社会福祉協議会市民活動助成 市民活動団体の立ち上げまたは活動資金を支援
- ・各種民間団体の助成情報の周知

○活動スペースの貸出し

○機材の貸出し

- ・印刷機、拡大印刷機、コピー機、紙折り機、館内情報検索用パソコン、図書等各種備品の貸出し
- ・他の施設、団体と共有できる物品の貸出し
プロジェクター、スクリーン、マイク、アンプ、DVDプレイヤー

○ボランティア保険および行事保険の相談や加入受付

V. 市民活動センターたちかわの特色

「市民活動センターたちかわ」は市民で構成される運営委員と職員を交えた20余名の合議型運営方式で運営している。

ボランティアや市民活動団体を支援すること(中間支援)を通して、社会の様々な課題解決に貢献することを目指し、日々、市民や団体を『つなぎ』、『育み』、『拓く』役割を担っている。

また、私達のセンターの特色といえるのは、いろいろな所から寄せられる多様な相談を大事にしていることである。漠然とした行き場のない相談の中に、新たな社会の課題が見え隠れし、市民発の活動として取り組む意義のある案件が多く含まれているからである。

市民や市民活動団体から聞こえてくる多くの声から市民社会の見えないNeedsやwantsを探り『協働の推進』、『地域づくり』、『市民活動支援』の3つのキーワードからなる事業を推進していく。地域や市民に根ざしたセンターを目指して、相手の声を直接に聞き、コミュニケーションを取りながら適切な役割を担うという手法を積極的に取り入れている。



設立から10年が経過したが、センターは現状に満足することなく、「これからの公共」について発信力を持つ大阪ボランティア協会やせんだい・みやぎNPOセンターなど、各地の先進事例を学びながら、多くの市民から愛される市民活動センターとなるよう取り組んでいく。^{※1}

^{※1}大阪ボランティア協会 <http://www.osakavol.org/>

せんだい・みやぎNPOセンター <http://www.minmin.org/>

2章 平成25年度の活動

I. 1年間の相談集計結果と特徴

ボランティア活動やNPO、地域活動に関する相談を市民活動センター窓口や、立川市社会福祉協議会あいあいステーション窓口、地域で事業を実施する中で受け付けた。相談内容に応じて、情報提供、課題整理のお手伝い、人や機関をつなぐコーディネート、生活課題解決のための個別相談などにつなげた。

相談内容も多岐に渡るため、個々の相談に応じて、その場面で必要な役割と支援を見極めることと、相談者である市民自身が持つ解決力を引き出すことを、センターの相談受付においては大切にしている。

また、センターに寄せられる相談から、その時々々の社会課題、地域課題、市民活動に関する現状が浮かび上がってくる。これらの相談内容は、今後のセンター事業を方向付ける基盤となっている。寄せられる相談等の大きな特徴としては、以下の4点がある。

①「本当に役立つ情報」が求められている

センターならではの入手可能な「具体的な人となりや活動が分かる情報」や「この辺りの地域で私たちが使える社会資源は何か」といった、きめ細やかな情報が求められている。情報を一面的に捉えるのではなく、新たな可能性を引き出す「役立つ情報」へと捉えていきたい。

②多様なつながりをつくる相談が増加している。

障害者施設と企業の連携、企業の社会貢献や創業を支援するためのネットワークづくりなど、団体の活動分野を越えた多様なつながりをつくるための支援が増えている。立川というまちに密着したセンターなので、多様な連携によって生まれる市民への波及効果を意識しながら、連携していく姿勢を大事にしたい。

③地域に密着した活動により、課題の掘り起こしがしやすくなっている

地域福祉コーディネーターが配置され、地域における交流の場づくりや団体間のネットワークづくり、調査活動、普及啓発活動を行なっている。地域福祉コーディネーターの配置地区では、より地域に密着した活動が展開できるようになり、相談を待つだけではなく、課題の掘り起こしや早期発見ができるようになった。平成25年度より3地区目への配置が実施されたことで、地域福祉コーディネーターが掘り起こした課題をセンターと連携して解決してゆく様相が相談の上でも明確になってきている。コーディネーター増配置により、センター窓口寄せられる相談も変化を見せ、地域に寄り添った相談機関としての広がりが重要となっていく。

④専門機関との新たな連携が必要な相談が増加している

介護保険のケアマネジメントに続くように障害を持つ方への相談支援ケアマネジメントが整備されつつある。また精神医療福祉の分野でも入院治療中心から地域生活中心へと基本的政策の転換が図られてきており、閉じこもりの方や、精神的ダメージを強く受けている方等からの相談など、援助における専門性を必要とされる場面も増えてきている。センターとしての対応の限界点を見極めると同時に、新たな専門機関との連携が必須な状況である。

(1) 市民活動センターたちかわに寄せられた相談

○相談件数【総合相談件数】（平成25年4月1日～平成26年3月31日） 2,604件

【相談件数（A）：センターの窓口で受けた相談の件数】 1,418件

（内訳）

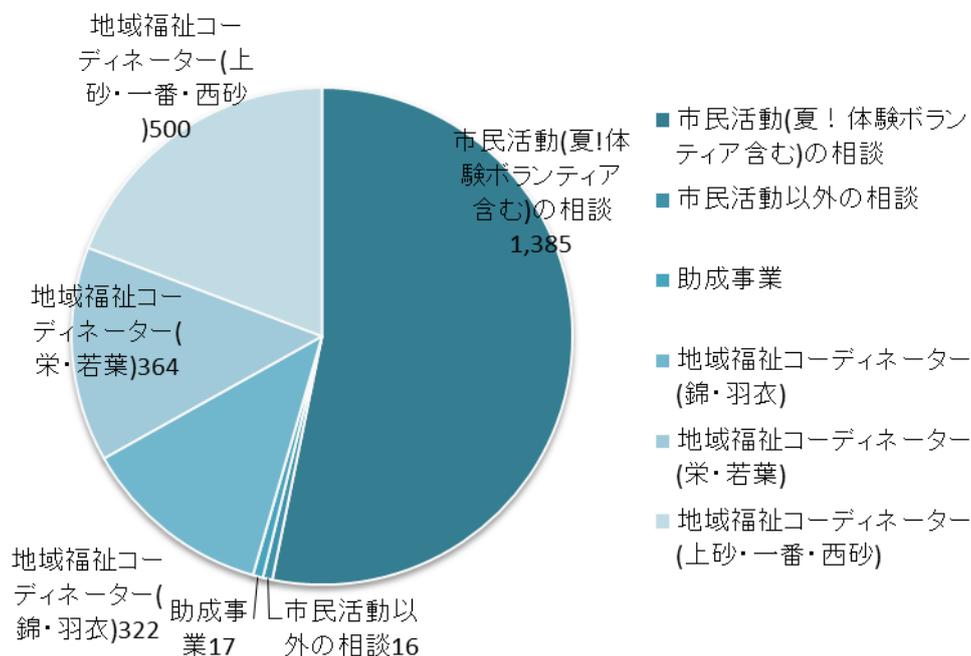
- ・ 市民活動に関する相談（夏！体験ボランティア 138件を含む） 1,385件
- ・ 市民活動以外の相談 16件
- ・ 助成事業申請相談 17件

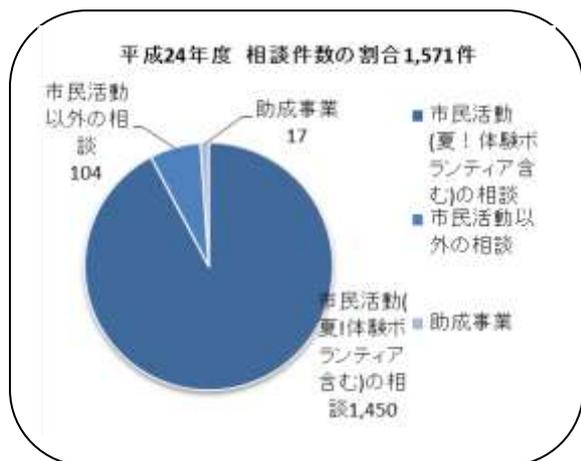
【相談件数（B）：地域福祉コーディネーターが相談を受けた件数】 1,186件

（内訳）

- ・ 地域福祉コーディネーターへの相談（錦町・羽衣町） 322件
- ・ 地域福祉コーディネーターへの相談（栄町・若葉町） 364件
- ・ 地域福祉コーディネーターへの相談（上砂町・一番町・西砂町） 500件

平成25年度 相談件数の割合 2,604件

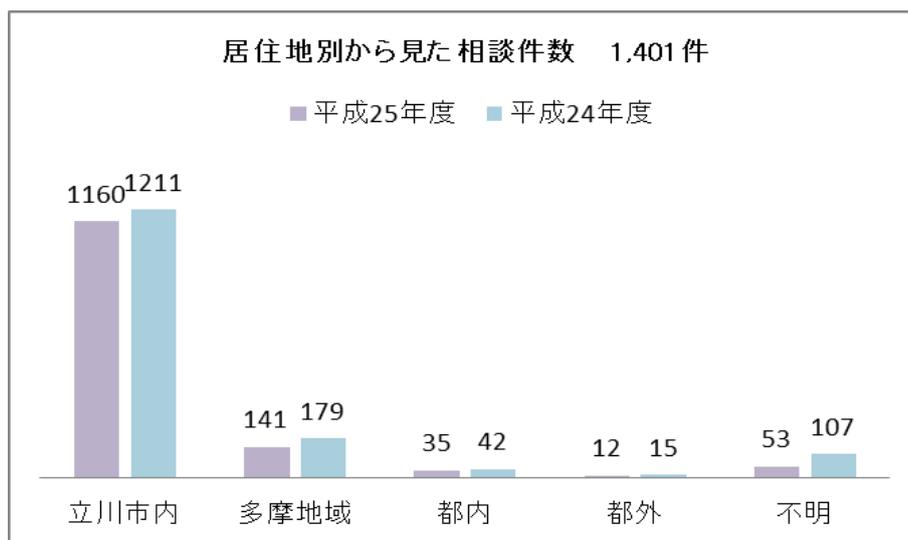




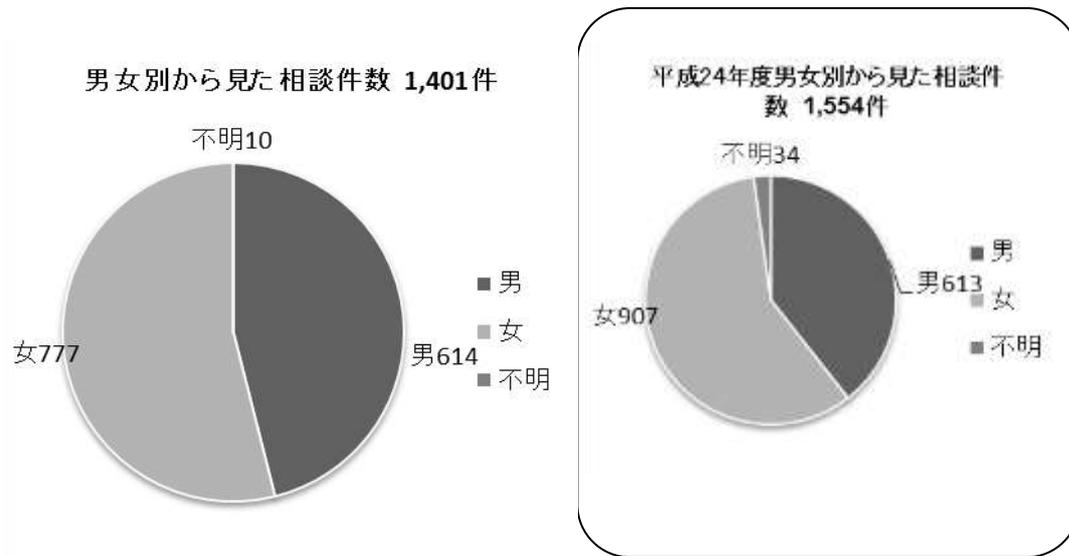
※上記は『センターの窓口で受けた相談(前ページにおける相談件数(A))』の内訳を表わすグラフ。
 ※以降の集計は市民活動に関する相談及び市民活動以外の相談(総合相談件数より「地域福祉コーディネーターへの相談(相談件数(B))及び「助成事業相談」を除く)件数1,401件から集計する。
 ※地域福祉コーディネーターへの相談については、20ページからの「Ⅱ.平成25年度地域福祉コーディネーター活動報告」において詳述する。

■相談者の様子

相談者の居住地は、センターの特性上、立川市内が最も多いが、市外からの相談も多く寄せられている。地域福祉コーディネーターの増配置により、センタースタッフにも、より地域に密着した相談が寄せられている。



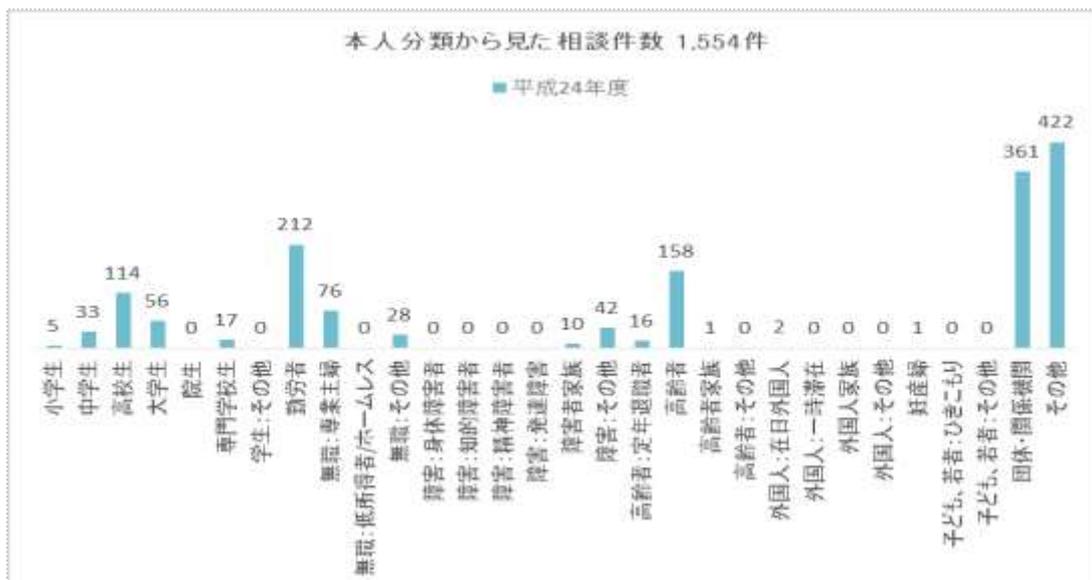
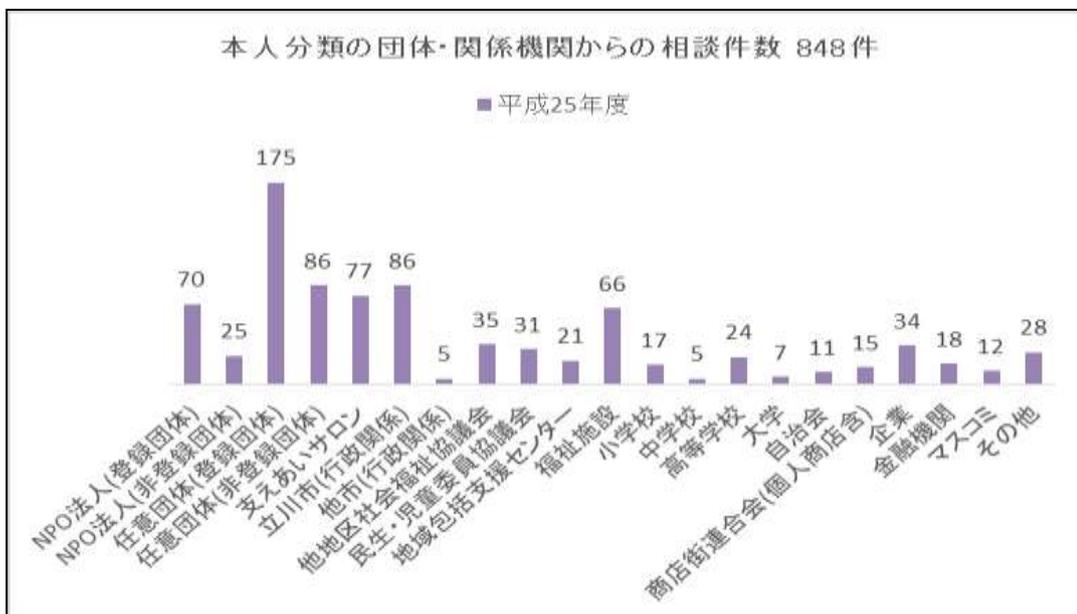
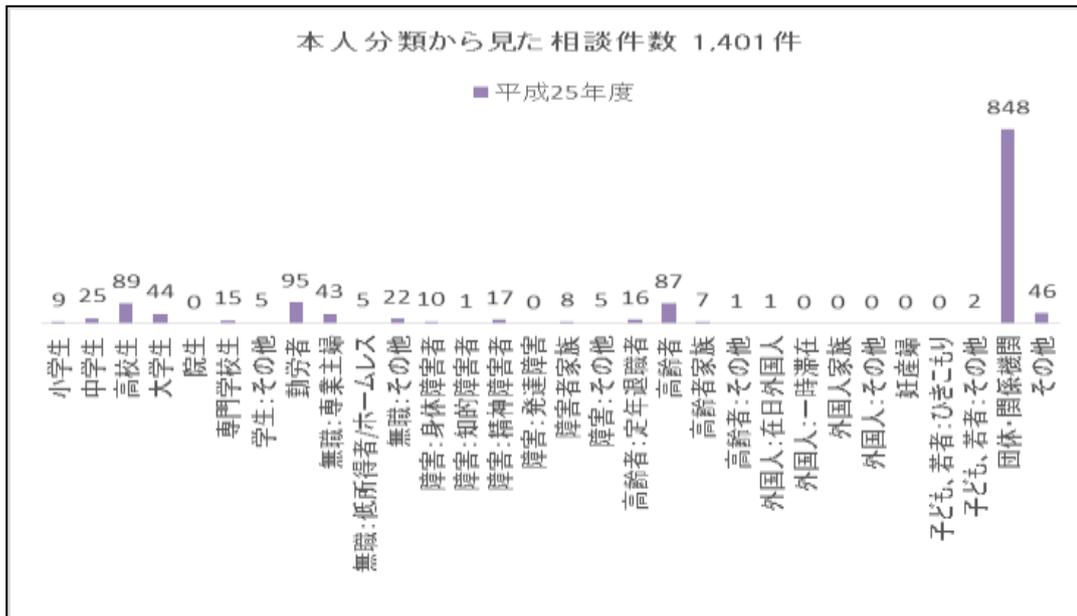
男女比は前年度と大きくは変わることはないが、女性からの相談が多い。



年代別の割合は、昨年度とほぼ同じであるが、30～40歳代の方からの相談の割合が増えている。

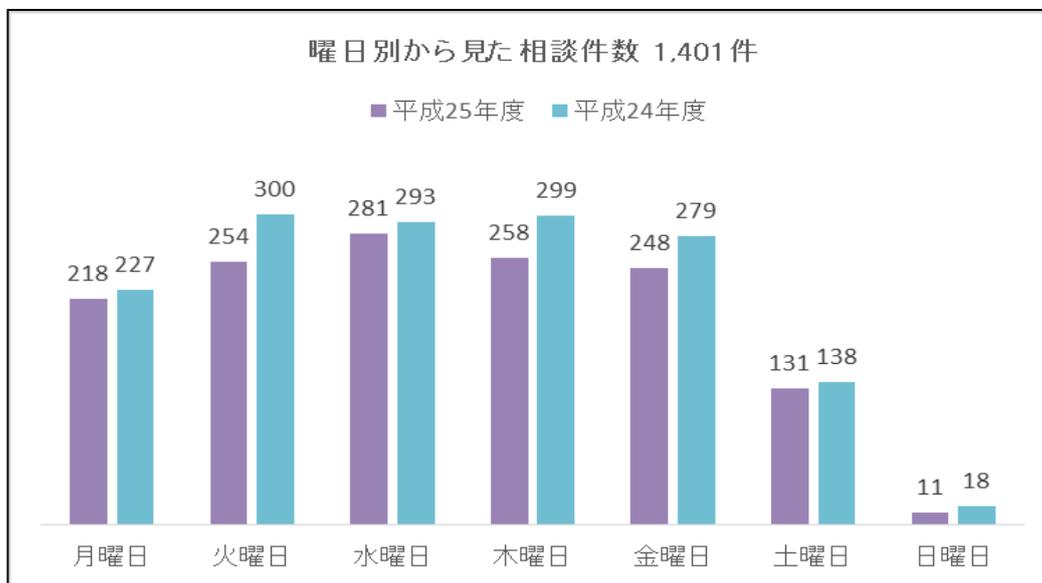


本人分類で見ると、前年度と比べその他分類の件数が、団体からの相談件数より下回った。団体の相談が多く、今年度は団体・関係機関の分類を行い、任意の登録団体が多いことから、市民活動センターは、何かあれば団体が相談できる窓口であるということを、伝えることができていると推察される。平成25年度から高齢者や障害者等の分類を細分化してデータをとっているため、数字が分散しているように見える。

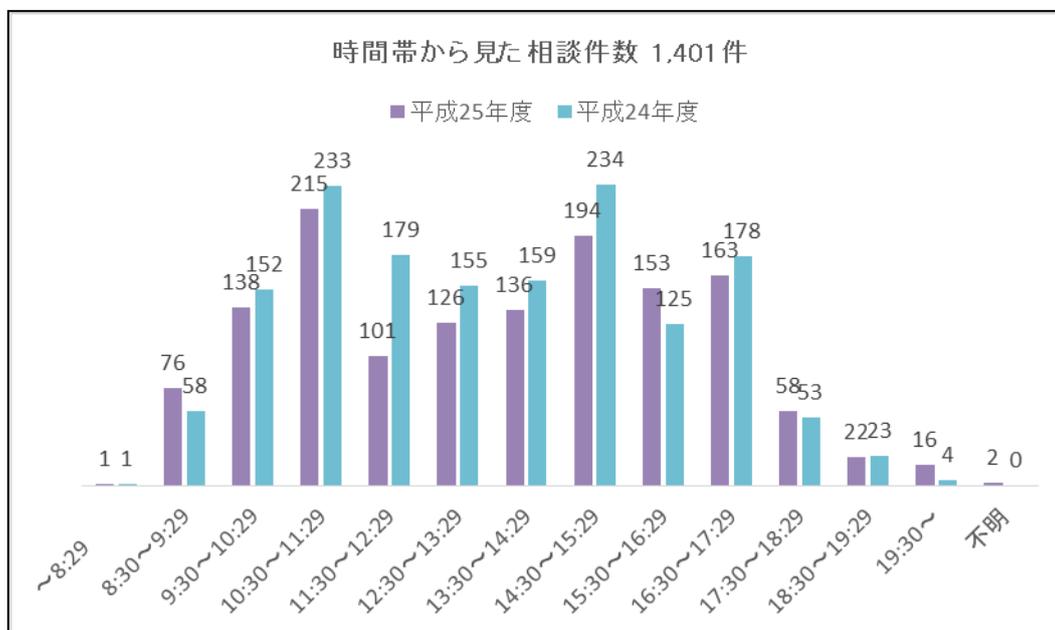


■相談が寄せられる日時の傾向

センター開所日のうち、土曜日の相談件数は昨年度同様に少ない。平日の週半ば、水曜日の相談が増えてきた。日曜日は、地域イベントなどの機会に受けた相談がほとんどである。



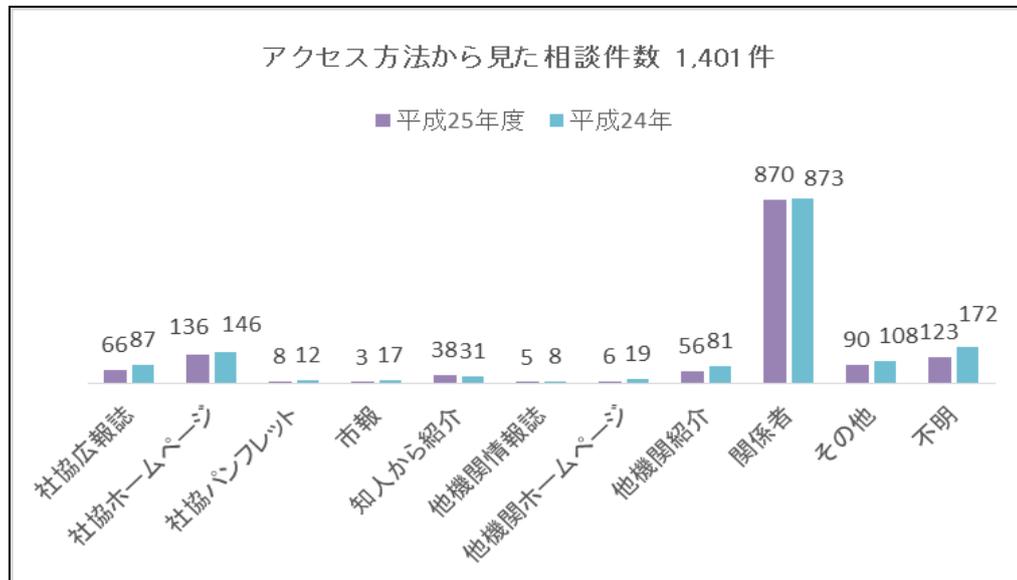
相談が寄せられる時間帯については、10:30～、14:30～の時間帯が昨年度と同様増えている。



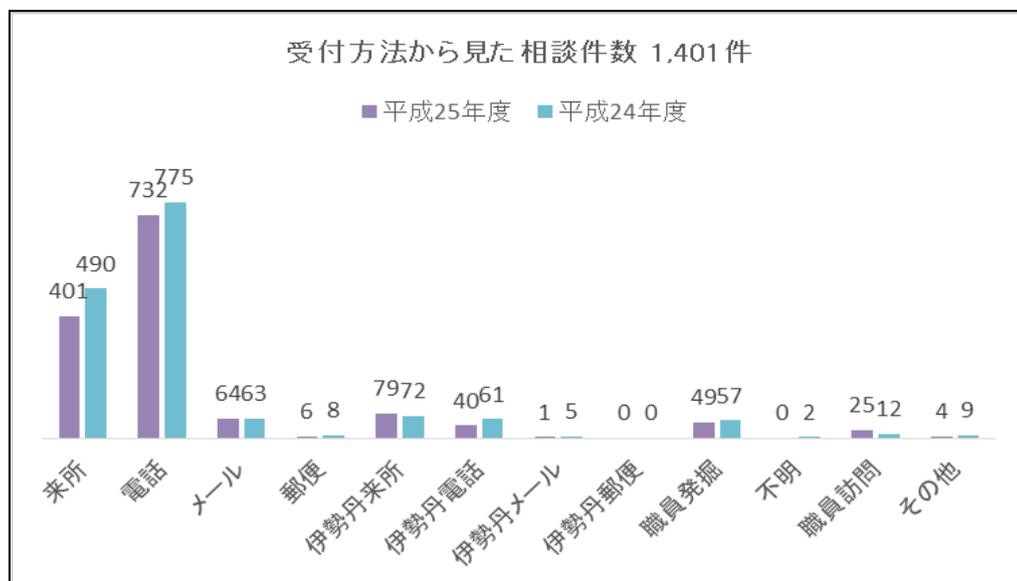
■センターに連絡を入れるきっかけとアクセス方法

ホームページからのアクセスが増加している。また、関係者からの相談も昨年度同様増えており、相談者の多くはリピーターであることが伺える。

なお、「関係者」とは、一度でもセンターを利用したことのある方を含めている。

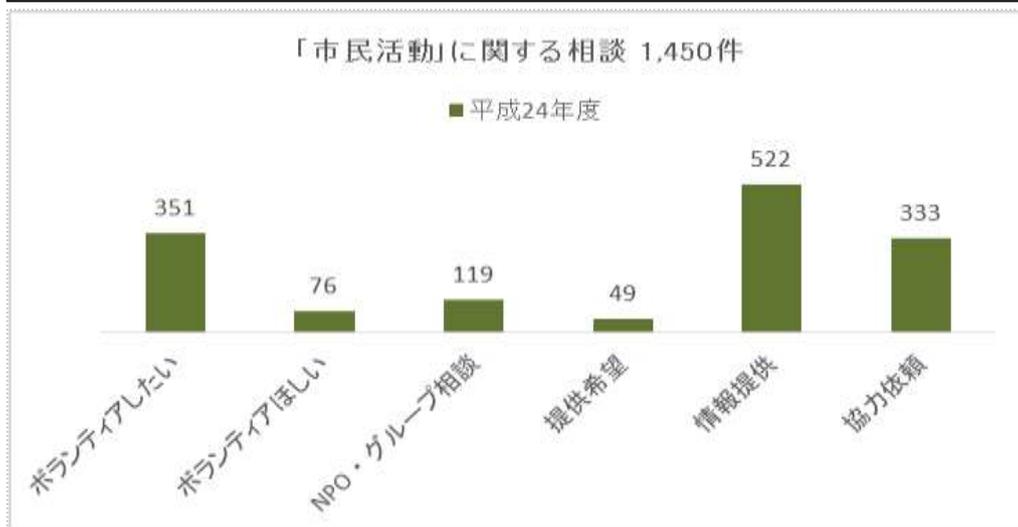
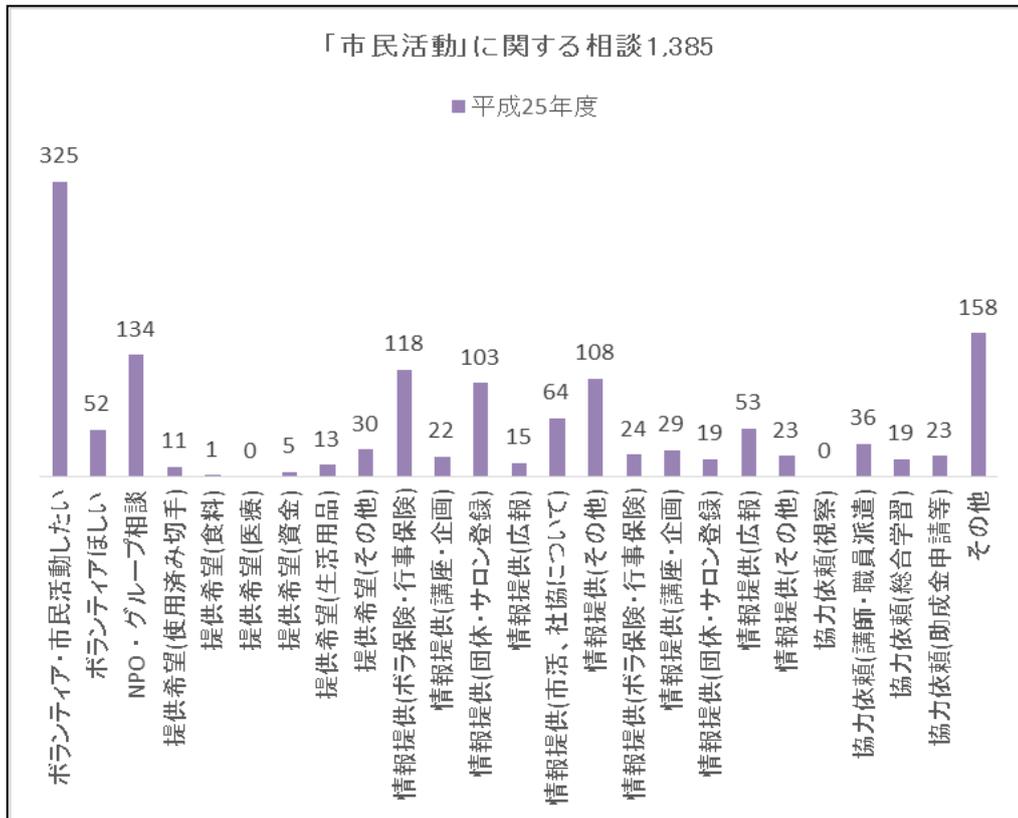


相談の受付方法については、全体比で見ると電話の割合が多くなっている。また、地域に出る機会が増えたため、職員が自ら課題を発見し相談につなげる件数も増えている。



■市民活動に関する相談内容

全体的な相談件数は昨年度(1,450件)と比べて約4%減少している。今年度は、市民活動センターから市民・団体への「情報提供」について、「ボランティア保険・行事保険」「団体・サロン登録」というように内容を絞って、相談内容を見てきたが、「ボランティア・市民活動がほしい」「市民活動センターからの情報提供」という相談が多いことがうかがえる。



「ボランティアしたい」「ボランティアほしい」という相談には、以下のような相談が寄せられている。最初から希望するボランティア活動のイメージを持っていない相談者も多く、その都度、相談者のニーズに合うような活動やボランティアを一緒に探している。最近では、ボランティアか

ら職員への就職手段の一つとして相談に来るケースや、障害のある方が就労する前にボランティアとして実習的に職場を体験したいといった相談も受付した。

活動分野	ボランティアしたい	ボランティアほしい
保健・医療・福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者施設での活動補助 ・施設でのレクリエーション（合唱、囲碁等） ・障害者団体の活動支援 ・身体障害者デイサービスでの活動補助 ・福祉作業所での活動補助 ・中途失聴者支援 ・手芸、洋裁指導 ・手話 ・障害児学童保育所の手伝い ・使用済み切手の整理 ・労務相談 ・健康体操講師 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者施設での楽器演奏 ・高齢者宅の囲碁相手 ・レクリエーション（音楽演奏、陶芸、囲碁等） ・ラジオ体操講師 ・福祉施設利用者の犬の散歩付き添い ・障害者団体イベント運営の手伝い ・障害者宅の電球交換、エアコン清掃 ・児童館行事の手伝い ・見守り ・傾聴 ・編み物指導 ・書道講師 ・図書の借受 ・猫預かり ・雪かき ・引っ越し荷解き
社会教育	<ul style="list-style-type: none"> ・夏の体験ボランティア ・高齢者施設への活動支援 ・学習支援 ・初詣の同行 ・数学指導 ・マナー講習 ・英語指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽イベントの運営 ・学習指導 ・放課後子ども教室の手伝い
環境保全	<ul style="list-style-type: none"> ・夏の体験ボランティア・清掃活動（ゴミ拾い） 	
まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・夏の体験ボランティア ・保育園での活動支援 ・障害児学童保育所の手伝い ・レクリエーション（合唱） ・イベント活動支援 ・イベントの際のケータリング ・パソコン指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民活動団体運営の手伝い

	<ul style="list-style-type: none"> ・編み物指導 ・朗読 ・動物とのふれあい ・音楽療法 ・孤立防止見守り ・散歩同行 ・使用済み切手整理 ・雪かき ・企業の社会貢献 ・企業の新人研修 	
文化・芸術・スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽イベントの企画運営 ・レクリエーション (ミュージカル等) ・一輪車運転指導 ・作法指導 ・体操指導 ・書道指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロバスケットボール試合運営手伝い ・テニス活動 PR 支援
子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・夏の体験ボランティア ・高齢者施設での活動 ・障害児への運動補助 ・保育園での活動補助 ・障害児学童保育所の手伝い ・放課後教室の手伝い ・おもちゃ図書館の手伝い ・出張児童館 ・発達障害児への訓練の手伝い ・海外に関わる活動 ・農業 PR 活動 ・育児・子育て支援 ・楽市案内人 ・英語指導 ・資料整理 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏の体験ボランティア ・保育園の活動補助 ・児童館での活動補助 ・学童保育所での勉強指導 ・特別支援学校行事の手伝い ・講座受講中の保育 ・障害児への運動補助 ・小学生学習サポート ・保育
情報化社会		<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害者に対するパソコン指導
国際協力	<ul style="list-style-type: none"> ・海外支援活動団体での活動補助 ・英語圏の外国人に対する日本語指導 ・国際交流イベントの手伝い 	
災害救助	<ul style="list-style-type: none"> ・被災地支援 ・被災者でのマッサージ 	

人権擁護・平和の推進	・ 貧困関係団体での手伝い	
職業能力開発・雇用機会の拡充	・ 障害者施設での手伝い	
その他	・ パソコン組立 ・ 他のボランティアセンターでの活動 ・ 写真洗浄	

また、活動分野から見ると「保健・医療・福祉」と「子ども」の分野が多いのは昨年度同様だが、「まちづくり」の分野が昨年度以上に増えている。このことから地域から寄せられる相談が増えていることが見て取れる。

(2)「市民活動」以外の相談

「市民活動」に関する相談以外にも、生活などに関する相談も寄せられている。

昨年度、「その他」の相談が最も多く、相談内容が見えずに数字として表れたため、「その他」の中でも寄附などの提供や、市民活動センターから団体への情報提供、視察の協力依頼などというように、相談内容を少し細分化させて今年度はデータをとったが、昨年以上にどの機関を訪ねたらよいかわからない(新たな社会的課題や公的サービスの隙間など)相談が多いことも特徴である。これらのことから、社会状況を反映している生活に関する課題なども増えていると考えられる。

市民活動以外の相談の中で、もっとも多い「その他」の分野には以下のような相談がある。

「その他」の相談内容

職業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育(ファミリーサポート)の就職あっせんについて ・ 視覚障害者支援のガイドヘルパー資格を取りたい ・ 就職を斡旋してもらえる NPO 団体を教えてほしい ・ 福祉作業所の求人募集 ・ 知的障害者の施設で働きたい ・ 離婚をして仕事を探している ・ 仕事をしながら NPO 活動を進めていきたい
子ども・若者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校介助員の子どもの接し方について
高齢者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市外の避難者の孤立問題について ・ 貧困者支援団体保護高齢者への見守り相談
法律・財産	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法律相談の予約について
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 麻雀をしている場について他県からの問合せ ・ 避難者家族からの相談 ・ 寄附金の問い合わせ ・ 歌のコンクール応募について ・ 家庭の悩みごと

○今まで取り組んできた仕組み作りの例

- ・立川市、立川商工会議所、多摩信用金庫、日本政策金融公庫、そして立川市社会福祉協議会の5団体で始動した「たちかわ創業応援プロジェクト」では、創業支援事業に関する協定書締結式を平成25年12月2日に執り行いました。以前は、起業・創業の相談を受けている各機関、団体がそれぞれどのような取り組みをしているのか、横のつながりが弱かったために十分に理解をしていませんでした。その結果、スムーズに適切な相談窓口を紹介することが困難でした。このたちかわ創業応援プロジェクトをきっかけに、NPO法人や市民活動の相談が他機関・団体に入った場合には、当会をご案内いただけるようになりました。

Ⅱ 平成 25 年度地域福祉コーディネーター活動報告

住民と協働して地域づくりを進める「地域福祉コーディネーター」を栄町・若葉町地区に専任で配置して7年、上砂町・一番町・西砂町地区に増配置して4年が経過した。地域福祉コーディネーターの増配置をし、地域内の多様な取り組みに関わりながら、地域課題を地域住民と共に俯瞰し、人と人、活動と活動の結び目をつくるべく活動している。

今後、市内の福祉6圏域全ての地域への配置を目指して住民主体の活動を積み上げていく。

(1) 地域懇談会の開催

市民による課題の発見と共有化をし、さらに解決のための活動づくりを目指して開催している。

《錦町・羽衣町地区》

■障がいのある人もない人も暮らしやすい立川を考える会 地域懇談会

障がい当事者や、家族、障がい関係事業所と共に、ほぼ毎月定例会を開催している。コーディネーターは会場の手配や広報の実務で関わっている。

5/7(火)	今年度の活動計画について	9名
6/11(火)	避難所の見学について	9名
7/2(火)	避難所の見学について・準備	8名
8/1(木)	避難所見学会(第六小学校にて)	20名
9/3(火)	避難所見学会の振り返り、他施設見学について	10名
10/15(火)	災害時の対応について要望まとめる。それいゆ見学会準備	6名
11/25(月)	それいゆ見学会	10名
1/14(火)	それいゆ見学会振り返り	6名
2/25(火)	今年度の振り返りと地域の情報交換	6名
3/27(木)	来年度の活動について	6名

■羽衣町1丁目第2アパート自治会 五者懇談会

かつて孤立死の問題で、マスコミに取り上げられた団地であり、現状を伺いながら五者懇談会を開催した。五者懇談会の後、団地内の交流活動についても継続的に話し合わせ、体操教室の立ち上げにつながった。

7/11(木)	自治会長ヒアリング	
8/28(水)	五者懇談会	10名

(自治会役員・民生委員児童委員・住宅供給公社・地域包括支援センター・社協)

《栄町・若葉町地区》

■「わかばの会(認知症の高齢者を支える家族の会)」の開催

平成21年度より、毎月1回定例会を開催している。介護をしている家族同士で日頃の不安や心の疲れを出し合い、情報交換も行っている。家族を看取られた方も少しずつ増えてきており、市民に

よる独立した組織として活動できるよう、長期的な支援をしたい。

○定例会 4/8 (6名)、5/13 (9名)、6/10 (5名)、7/8 (5名)、8/12 (5名)、9/9 (9名)、10/21 (6名)、11/11 (3名)、12/9 (8名)、1/20 (5名)、2/10 (6名)、3/10 (3名)

■男性介護者の集い

上記の認知症の高齢者を支える家族の会にも男性介護者は参加しているが、一般的に男性は女性が多い懇談の場に参加しづらく、女性以上に介護を負担に感じながらも一人で抱え込みがちである。そこで、わかば地域包括支援センターと共催で、状態が深刻化しがちな男性のみを対象に、懇談の場を偶数月（隔月）で開催。参加者は近隣市からもみえており、認知症の方だけでなく、難病の家族を看病している人もいる。当日参加者たちと話し、分かち合うことで肩の荷を降ろして帰っていく方も多し。引き続き協働開催をしながら、出された問題から、現行の介護保険制度の課題についても考えていきたい。

○定例会 4/6 (7名)、6/1 (5名)、10/5 (6名)、2/1 (3名)

■障がいのある人もない人も暮らしやすい立川を考える会 地域懇談会

障害のある人が地域から排除されることなく、今以上に社会の構成員としての役割を果たしていけることを目指して、複数の団体と協働で栄町・若葉町地域懇談会として開催している。コーディネーターは会場手配、情報が伝わりにくい該当者への呼びかけなどを行っている。障害のある人もない人も共通の課題は防災であることから、発災時に障害のある方が地域で取り残されることがないように、日ごろから地域と接点をつくるように心がけている。今年度は障害についての啓発活動、学習機会の醸成、障害当事者との交流活動を軸に、今後も地域を中心に活動をすすめていきたい。

参加者： 地域在住障害当事者、障害関係団体、民生委員・児童委員障害福祉部会、有志の住民

○定例会

- 5/17(金) 今年度の活動計画について、映画上映会について 7名
- 6/21(金) 映画上映会「逃げ遅れる人々」の実施 30名
- 7/8(月) 映画上映会「逃げ遅れる人々」の実施 40名
- 9/4(水) 映画上映会ふりかえり、下半期の活動について 10名
- 10/3(木) 下半期の活動について 11名
- 11/14(木) レクリエーション会について 12名
- 12/14(土) 障害当事者家族とのレクリエーション会開催 20名
- 1/17(金) レクリエーション会ふりかえり、今年度の活動ふりかえり 10名
- 3/3(月) 来年度の活動について 12名

■若葉町団地自治会・住宅管理協会・民生委員・地域包括支援センター・社協による見守り懇談会(五者懇談会)

団地に暮らす高齢者の孤立死を防ぐために懇談の場を設けて定期開催をしている。前年度購入の階段昇降機の運用研修を通して防災の人材育成を始めている。

過去には五者懇談会の中で住民同士の繋がりを広げるためのお食事会が開催され、ボランティア

で食事作りをしていた住民が、周囲の期待に応じてレストランを開業するなどの動きが見られた。本会議の成果としては、UR 管理事務所と地域包括支援センター、民生委員が連携することで緊急対応が速やかにできるようになった点が大きく、実際本年 1 月に団地で起きた火災についても、救助・安否確認等、自治会・民生委員・住宅管理協会・地域包括支援センターとの連携のもと、迅速な対応が実現した。

○若葉町団地見守り懇談会 定例会と主なテーマ

- 4/23(火) 第 12 回定例会「団地の見守り活動、要援護者リストの取り扱いについて」10 名
- 6/28(金) 第 13 回定例会「要援護者リストと見守り支援者について」10 名
- 9/6(木) 第 14 回定例会「団地内の見守り活動、防災訓練について」11 名
- 11/26(火) 第 15 回定例会「防災座談会ふりかえり、安否確認訓練について」11 名
- 1/24(金) 第 16 回定例会「防災イベントふりかえり、ゴミ出しについて」9 名
- 3/11(火) 第 17 回定例会「来年度の活動について」6 名

参加者 若葉町団地自治会、若葉町団地担当民生委員・児童委員、UR 都市機構(住宅管理協会)、わかば地域包括支援センター

■けやき台団地自治会・住宅管理協会・民生委員・地域包括支援センター・社協による見守り懇談会(五者懇談会)

若葉町団地同様に懇談の場を定期開催している。けやき台団地は自主防災組織が結成されており、交流活動を通しての人材発掘、孤立防止、災害時要援護者を団地独自にリスト化するなど活発な取り組みをしている。

○けやき台団地見守り懇談会 定例会と主なテーマ

- 4/22(月) 第 10 回定例会「サロン活動、自治会独自の取り組みについて」8 名
- 7/22(月) 第 11 回定例会「サロン活動、ゴミ出しルールについて」10 名
- 10/28(月) 第 12 回定例会「サロン活動、防災フェアについて」7 名
- 1/27(月) 第 13 回定例会「サロン活動、高齢者の見守りに関して」7 名
- 3/17(月) 第 14 回定例会「サロン活動、来年度の活動について」5 名

参加者 けやき台団地自治会、若葉町団地担当民生委員・児童委員、住宅管理協会、わかば地域包括支援センター

■江の島道東住宅自治会・東京都住宅供給公社・民生委員・地域包括支援センター・社協による見守り懇談会(五者懇談会)

昨年度に引き続き、今年も孤立死の早期発見や日常の見守りに関して、それぞれのスタンスを確認しあった。頻繁な定例化は難しいものの、今年度からは年度に 2 回は開催したい。

○定例会 8/20 (火) 住宅供給公社・自治会・地域包括支援センター・社協の地域における関わりについて

災害時要援護者リスト・見守り活動について、活動の情報交換など 8 名

参加者 江の島道東住宅自治会、江の島道東住宅担当民生委員・児童委員
住宅供給公社、わかば地域包括支援センター

《上砂町・一番町・西砂町地区》

■障がいのある人もない人も暮らしやすい立川を考える会 地域懇談会

障害のある人が地域から排除されることなく、今以上に社会の構成員としての役割を果たしていけることを目指して開催している。災害時要援護者支援のあり方を探りながら、「災害時への備え＝日常的なコミュニティへの参加」を当面のテーマとし、障害当事者と地域活動者で共に取り組みを継続させていく。

参加者： 地域在住障害当事者、障害関係団体(たつのこ、手をつなぐ親の会、自立生活センター・立川)、民生委員・児童委員障害福祉部会、立川市災害ボランティアネット、グッドネイバー西砂一番、市議会議員

○定例会

- 5/ 8(水) 第 22 回地域懇談会 被災経験のある障害当事者講演会について 17 名
- 6/18(火) 講演会打合せ 4 名
- 8/23(金) 第 23 回地域懇談会 被災経験のある障害当事者講演会について 11 名
- 9/13(金) 講演会「今わたしたちに準備できること」実施
講師：小野和佳氏(NPO 法人いわき自立生活センター) 52 名
- 10/4(金) 第 24 回地域懇談会 講演会ふりかえり 12 名
- 11/15(金) 第 25 回地域懇談会 障害者差別解消法に連なる条例づくり請願に向けて差別事例について意見交換 12 名
- 1/17(金) 第 26 回地域懇談会 就労支援事業所立上げ構想について 6 名
- 3/ 4(金) 第 27 回地域懇談会 今後の活動について 11 名

■松中団地四者懇談会

高齢化と団地建替えに伴うコミュニティ崩壊を防ぐために、自治会、民生委員、かみすな地域包括支援センターと共に開催。個別ケースの支援や号棟ごとの見守り体制づくり、集会所を使った定期的なサロン開催、学習会開催など継続的な協働体制が定着した。自治会が役員だけではなく、団地内のちょっとボランティアや自衛消防隊と共に活動を展開するなど、住民自治の輪も広がっている。

- 2/1(土)・2(日) 自治会役員と共に「全国集合住宅団地支え合いサミット」に参加し情報収集
- 3/ 7(金) 防災訓練時の安否確認シミュレーション打合せ 9 名
- 3/ 9(日) 全棟で安否確認シミュレーション実施

■エステート立川一番町

支え合いサロン「エステート・暮らしの相談室」による喫茶、住民相互の御用聞き活動、リサイクルバザーが継続開催される中、管理組合主催の防災学習会開催にも至った。

- 5/11(土) 立川市災害ボランティアネットによる防災学習会 40 名
- 2/22(土) 元気なまちフォーラム～地域のつながりさまざまなカタチ～で「エステート・暮らしの相談室」より事例発表

■親交自治会

災害時要援護者支援や日頃からの住民同士の見守りについて、現状と課題、地域活動の可能性について民生委員、地域包括支援センター職員も交えて情報交換を行った。空き家3世帯の安否確認にも至った。

8/ 3(土) 地域防災・見守り活動について 13名

10/5(土) 地域防災・見守り活動について 11名

■希望ヶ丘自治会(災害時安否確認シミュレーションなど)

10/20 に実施された自治連西砂支部防災訓練参加にあたって、住民相互で声をかけ合い自治会内公園に集合してから避難所へ向かうという訓練を協議、実施した。

■天王橋自治会(安否確認シミュレーションなど)

23年度秋より自治会集会所を使った茶話会を住民主体で隔月開催中。テーマを変えた学習会や日常からの見守り合いを意識した安否確認シミュレーション実施も2年目となり、自治会・民生委員・かみすな地域包括支援センターによる個別住民支援の連携体制も定着した。

9/ 8(日) かみすな地域包括支援センター出前講座(消費生活センター寄席)実施 15名

要見守り者について自治会役員、民生委員、包括と四者協議 6名

9/29(日) 防災訓練安否確認シミュレーション実施 136名

立川市防災課による防災学習会 40名

2/22(土) 元気なまちフォーラム～地域のつながりさまざまなカタチ～で事例発表

■ハイホーム立川一番町自治会役員会(マンションにおける防災懇談会など)

マンション内での住民相互の関わり合いづくりを意識した防災活動のため役員懇談会を実施した。

7/24(水) 防災訓練について懇談 5名

8/ 4(日) ハイホーム立川参番館自治会長を招いて防災をテーマに懇談会 6名

《3 地区合同》

■子育て支援懇談会

子ども支援ネットワーク会議に参画したり、地域から子育ての相談を受ける中で、既存の制度・サービスでは不十分であったり、市民だからこそ関われる領域があるのではないかと考えてきた。子どもの支援に関わっているボランティアや団体、行政の育児支援事業受託団体の方々と共に、地域につながるのなご家庭に対し、どういう支援が可能かを考え、具体的に「ちょっと先輩の子育てサポーター養成講座」(後掲)を開催することができた。今後は行政と地域ボランティアの連携が課題になってくると思われる。

参加団体：NPO法人ワーカーズコープ、チャイルドラインたちかわ、ミニトマの木、たすけあいワーカーズパステル、マザートゥリー(株)、ファミリーサポートセンター援助会員、ほっとほっとたちかわ、他個人ボランティア

5/25(火) 日原さんによる学習会 9名

7/27(土)	ちょっと先輩の子育てサポーター養成講座企画立案	9名
8/31(土)	〃	準備 11名
10/26(土)	〃	中間振り返り 5名
11/19(火)	講座終了後の参加者へのフォローについて	5名
1/18(土)	〃	6名
3/29(土)	今後の取り組みについて意見交換	4名

■ちょっと先輩の子育てサポーター養成講座

上記の子育て支援懇談会にて企画された。孤立し、パワーダウンしている親御さんに対して声をかけたり見守ることができる、年齢の近い人を育成することを目的とした。講座終了後、実際に3つの企画を立て、参加した妊婦や出産後の方の不安や悩みを聞く機会を準備した(内、今年度は1つ実行)。

日 時 平成25年10月22日(火)、11月5日(火)、11月19日(火)

場 所 立川市総合福祉センター 立川市子ども未来センター

講 師 日原みちる氏(株)マザートゥリー代表

内 容 脳のしくみ/こころと身体の発達/話の聴き方/コミュニケーションのとり方

こころと身体のしくみ ・ ・ 各回とも座学とワークによる講義

受講者 14名

○講座修了者との企画立案

12/3(火)11名、12/10(火)3名、1/21(火)5名、2/18(火)2名、3/7(金)3名

○「メイクアップセラピー講座」

妊婦を対象に広報をしたが集客できず、子ども連れの方の参加となった。企画の進行についてはよく練る必要があり、次回の企画に生かすこととなった。

日 時 平成26年3月23日(日)

場 所 けやき台団地自治会集会所

講 師 小林総予氏(メイクアップアーティスト)

参加者 5名 講座修了生2名

(2)交流の場づくり

《錦町・羽衣町地区》

■住民のつながりづくり

①錦みよし会

自治会福祉部と協働し、数回の打ち合わせを経て介護予防教室や体操教室の立ち上げを行った。

10/18(金)介護予防教室9名、11/18(月)体操教室立ち上げ・サロン登録支援。

2/15(土)介護予防教室7名

②ナイスエスアリーナ(マンション)

マンションではすでに体操教室や交流活動を行われているが、体操教室の継続や防災の講座開催

などについて提案をした。(防災講座協力：立川市災害ボランティアネット)

1/22(水)体操教室の継続について3名、3/8(土)防災講座18名

③セザール立川(マンション)

住民のつながりが少ないとのことで、管理組合役員と話し合い、介護予防と防災に取り組むこととした。(防災講座協力：立川市災害ボランティアネット)

11/16(土)総会ではごろも地域包括支援センターと錦相談センターともに介護の情報提供をする。その後、総会欠席者のお宅を錦相談センターが役員さんと共に訪問調査をして下さった。

1/26(日)防災講座24名

④錦東会

1/24(金)集会所を活用しての体操教室体験会14名。健康推進課の事業を申請し4月より継続開催。

⑤錦五丁目親和会体操教室体験会

1/27(月)集会所を活用しての体操教室体験会13名。健康推進課の事業を申請することに。4月から継続開催。同時に参加資格がなかった方のフォローで他の社会資源につなぐ。

⑥羽衣町1丁目第2アパート自治会

五者懇談会のあと、見守りの仕組みについて度々話し合いの機会を設けた。

10/31(木)「お互い様学習会」11名。富士見町の結サポートセンター今井さんが講師。

11/18(月)「団地の支え合いについて(意見交換)」13名

12/8(日)「団地のつながりマップづくり」15名

1/16(木)介護予防教室10名

1/30(木)健康体操教室体験会13名 健康推進課の事業を申請し、4月より継続開催。

⑦羽衣町みのわ会

2/5(水)体操教室について説明会9名 健康推進課の事業を申請し、4月より継続開催。

⑧羽衣第3アパート自治会

1/16(木)介護予防教室10名

⑨東羽衣会

2/25(火)健康推進課の事業で体操教室を立ち上げたい旨相談。制度の説明、手続きの支援。

13名で申請し、4月から継続開催に。

⑩はごろもさわやか体操教室

1/25(土)地域包括支援センターで主催していた体操教室を継続させたい旨相談あり、グループの結成を支援。健康推進課の事業を申請し、4月より継続開催に。

■社協支え合いサロン立ち上げ支援

高齢者サロン／ぴんぴん体操錦同好会 三四体操会 計2グループ

■サークル等立ち上げ支援

ぴんとれなかよし会

《栄町・若葉町地区》

■男性のための料理教室(栄地区)

平成 21 年度から継続している事業。栄町地区グッドネイバーをすすめる会、立川介護老人保健施設わかばの栄養士、わかば地域包括支援センターの協働で毎月 1 回開催し、15 名前後の方が参加している。わかば地域包括支援センターが関わった方に参加を促すなどし、閉じこもりがちだった方の社会参加に繋がっている。昨年度は男性の参加者が若干減少したものの、変わらず貴重な地域参加の場となっている

■男の料理教室(若葉町地区)

立川健康生活ネットワーク、わかば地域包括支援センターと協働で毎月開催し、毎回 18 名前後の方が参加している。栄町と同様、定年退職後の男性や地域との繋がりがあまりなかった方、虚弱な方も気軽に参加できる貴重な場となっている。

■住民のつながりづくり

①自主防災組織の立ち上げ支援

自治会が自主防災組織を立ち上げることにより、災害時における地域住民の不安が軽減されるばかりでなく、防災イベントを通じ、希薄な隣近所の付き合いの解消につながることを期待され、コーディネーターとしては、機会があれば立ち上げ支援につなげるようにしている。

○若葉の杜自治会

立ち上げ相談 6/20(木) 近隣自治会とのヒアリング調整

※本年 3 月、無事組織が立ち上がったとの報告あり。

②若葉町団地 防災に係る活動

○防災座談会

五者懇談会の中で、災害時における要援護者の支援を自治会としてスムーズに行うにはどうしたらよいか、という課題が挙がり、防災を切り口とした「要援護者同士が顔を合わせる機会」という位置づけのもと、防災座談会を実施することとなった。1 開催あたり 5~6 棟の住民を対象に全 5 回開催。民生委員(対象者のみ)・自治会・包括・住宅管理協会の 4 者も参加。

6/21(参加者 11 名)、7/26(参加者 9 名)、8/23(参加者 11 名)、9/20(参加者 12 名)

10/29(参加者 8 名)

○安否確認訓練

若葉町団地では、要援護者世帯に黄色いスカーフを配布し、大規模災害時に玄関やベランダに結びつけることで、近隣住民に自身の安否を知らせる訓練を定期的の実施している。社協としても地域包括支援センターとともに参加し、気になる方の発見・声掛けを随時行っている。

2/5(住民向け防災講座も併せて実施)

○防災意識啓発のための映画上映会・分かち合い

要援護者リスト提出者を中心に、防災意識の向上と話し合える場を提供するために、防災映画の上映会を自治会・地域包括支援センターとともに実施。映画上映後は参加者同士の分かち合いを含め、災害時の不安点や日常生活上の課題等を伺ういい機会となった。

2/22(土) 映画「逃げ遅れる人々」 参加者 15 名

■社協支え合いサロン立ち上げ支援

高齢者サロン／新緑グループ、ものづくりの会、ロコトレ、生き生き体操、りんどうの集い
子育てサロン／けやきつづくらぶ、よるりん、へびまる
その他 / KEYADAN 計9グループ

《上砂町・一番町・西砂町地区》

■障害児の親御さん向け茶話会「ホッとひとときカフェ」

当事者団体にもつながっておらず孤立しがちな障害児のいる家庭が、同じ立場にある地域住民とつながれる機会をつくるために開催。立川市手をつなぐ親の会と立川市肢体不自由児者父母の会たつことの三者共催とし、「こういう集まりに参加するのは初めて」という親御さんを、すでに経験を踏んできた当事者親団体の会員がサポートしながら相互交流する機会となっている。「自身も発達障害当事者」という方も複数参加されている。

茶話会実施>4/30(火)14名、5/31(金)12名、6/11(火)9名、7/9(火)7名、8/13(火)4名
9/10(火)7名、10/8(火)7名、11/12(火)10名、12/10(火)2名、1/14(火)3名
2/18(火)4名、3/11(火)7名

■男の料理教室

退職した男性の地域参加と仲間づくりを目的に、かみすな地域包括支援センターと協働実施。今後は自主グループ化の予定。

開催準備会>7/11(木)3名、11/16(土)3名
教室実施>11/21(木)24名、1/16(木)12名、2/19(火)11名、3/20(木)14名

■住民のつながりづくり

①上砂町5丁目界限

マンションが林立し、集会施設がない地区での茶話会立ち上げを支援。砂川園より会場提供の協力を頂き、地域包括支援センター職員、民生委員で周辺住民の誘い出しをし実施。平成25年12月以降は、月1回の自主継続開催となった。

開催>5/17(金)15名、6/21(金)7名、7/19(金)10名、8/16(金)13名、9/20(金)11名、
10/18(金)10名、11/15(金)8名

②一番町市営北住宅

高齢世帯も多い住宅での孤立防止を目的に団らん室を活用した体操教室を開催。教室開催後はかみすな地域包括支援センター職員が住民管理の交流室での自主活動継続に向けたサポートを実施。2/22(土)元気なまちフォーラム～地域のつながりさまざまなカタチ～では世話人役を担っている住民から事例発表。

教室開催>4/11(木)介護予防体操(協力:立川指圧健康友の会)5名
5/9(木)介護予防体操(協力:一番町在住体操講師)8名
6/13(木)介護予防体操(協力:立川ラジオ体操協会)10名

③一番町 1-1 地区

自治会から脱退して15年以上が経過した地区から「住民のつながりを再構築したい」という希望があり、住民相互の顔合わせも兼ねた防災学習会を実施。

5/26(日) 立川市災害ボランティアネットによる防災学習会 11世帯

④リーベスト立川管理組合

マンション内での住民のつながりづくりを目的とした交流室活用を検討中の管理組合役員と茶話会をイメージしながら懇談会を実施。

懇談会>1/6(土)4名、3/15(土)6名

■支え合いサロン立ち上げ支援

高齢者サロン/コープタウン一番会、トリム体操にしすなクラブ、トリム健康体操コスモス、
やすらぎヨガ、トリム体操フレッシュ、健康ヨガさくらんぼの会、ピッコロ
子育てサロン/ヨガサークルヨガ 計8グループ

(3)調査・広報活動

《錦町・羽衣町地区》

■地域広報紙「まちなつと～錦町・羽衣町」の発行

錦町、羽衣町を対象に2回(7月、12月)、約13,500部を各戸配布した。まだあまり反応がなく、掲載記事のタイミングや内容をさらに工夫していく必要がある。

■自治会長ヒアリング

錦町、羽衣町の自治会長を対象に自治会長ヒアリングをさせて頂いた。そこから介護予防教室の提案をするなど、取り組みにつなげることができ、貴重な情報をもらうことができた。羽衣町のまだ終えていない自治会は翌年度に訪問をする。

錦町(全8自治会):錦東会、錦西協力会、錦東和会、錦二の中町会、錦和会、錦みよし会
錦町五丁目親和会、錦六会

羽衣町(全11自治会):羽衣町1丁目第2アパート自治会、羽衣会、東羽衣会、羽衣町みのわ会、
コープ西国立自治会、羽衣町三丁目自治会

《栄町・若葉町地区》

■地域広報紙「まちなつと」の発行

栄町、若葉町を対象に5回(5月、7月、10月、12月、2月)、約12,000部を各戸配布した。わかば地域包括支援センターと協働で作成しており、介護の記事を読んだの相談も増えている。また企画したイベントも本紙を見ての参加が多くなってきた。

《上砂町・一番町・西砂町地区》

■地域広報紙「まちなつと～上砂町・一番町・西砂町」の発行

かみすな地域包括支援センターと協働で7月・10月・2月に約13,500部を各戸配布した。公共施

設、相談センター、郵便局、病院、商店にも設置協力をいただいた。コーディネーター担当誌面については、住民による地域活動情報の媒体となることを目的として発行した。

(4) その他

《錦町・羽衣町地区》

■地域団体との共催事業

①認知症サポーター養成講座

日 時 平成 25 年 7 月 31 日 (水)
場 所 羽衣中央会館
講 師 南部東はごろも地域包括支援センター職員
参加者 35 名

②さんきゅうハウス学習会「地域あんしんセンターの活動内容と利用者の金銭管理について」

日 時 平成 25 年 11 月 7 日 (木)
場 所 さんきゅうハウス
講 師 地域あんしんセンターたちかわ 職員
参加者 7 名

③「老人ホームの料金はいくらかかる？」

日 時 平成 25 年 9 月 5 日 (木)
場 所 羽衣中央会館
講 師 南部東はごろも地域包括支援センター職員
参加者 27 名

④錦学習館企画「一人でも高齢世帯でも認知症があっても最期まで地域で」24 名

●地域で暮らし続けることを支える地域包括支援センターの役割

日 時 平成 26 年 1 月 22 日 (水)
講 師 南部東はごろも地域包括支援センター職員
参加者 24 名

●地域で暮らし続けることを支える在宅医療の取り組み

日 時 平成 26 年 1 月 29 日 (水)
講 師 小峰とみ子氏 (立川相互ふれあいクリニック在宅看護師長)
参加者 17 名
場 所 両日とも錦学習館

■課題解決のためのしくみづくり

①防災のまちづくりを推進する取り組み

○錦町自治会連合会との連携

平成 25 年～26 年にかけて、錦町は立川市防災課による防災モデル地区推進事業の該当地域になっている。26 年度の事業終了時に避難所運営委員会が立ち上がれば、災害時要援護者の支援で地域団体と協働することになると思われる。今年度は障がいのある方や介護保険事業所にも参加を

呼び掛けるようにし、積極的に情報収集に努めた。

6/10(月) 立川市防災モデル地区推進事業(錦町)

7/23(火) //

10/6(日) // (防災まち歩き)

11/12(火) // (防災マップ作成)

1/21(火) //

○地域自治会等との連携

1/26(日)セザール立川 防災講座(再掲) 講師:立川市災害ボランティアネット

3/8(土) ナイスエスアリーナ防災講座(再掲) //

②市内の認知症高齢者の家族会 訪問

市内にはいくつかの認知症高齢者の家族会がある。高齢者の介護をしている家族を支える仕組みがとても重要だが、市内の各団体共通の課題などがあれば、連携をとりたいと思い訪問をした。結果、どの家族会も「介護者の精神的なケア」という面で大きな役割をはたしているが、学習会活動や、世話人の育成などは特に行っていなかった。そのニーズがあるかも含め、次年度関係者と意見交換をしていきたい。

訪問先:家族介護者の集い(ふじみ包括)、認知症高齢者を抱える家族の集い(はごろも包括)
サロンひとやすみ(たかまつ包括)、男性介護者の集い(わかば包括)、
なんでもしゃべろう!(さいわい包括)

《栄町・若葉町地区》

■講演会・学習会

①地域包括支援センターとの共催事業

○学習会「病院のしくみについて学びましょう」

例年行われている学習会。病院にかかった際の流れや、受診科目選びのポイント、医師とのやり取り等、日頃からどのような準備をしたら良いかについての学習会を実施した。

日 時 平成25年8月26日(月) 14時～

場 所 立川新緑クリニック

講 師 東大和病院 看護部長 比留間恵氏

参加者 52名

○学習会「老人ホームの料金はいくらかかる？」

介護が必要となった時にどういうところで暮らすか、という問題はひとり暮らし高齢者が増えている現在、とても強い関心が寄せられる。実際の施設からの請求書を元に、基本的な内容をお伝えする講座で、こちらも定番になっている。

日 時 平成25年10月23日(水) 栄地区 10時半～ 若葉地区 13時半～

場 所 幸学習館 立川新緑クリニック

講 師 わかば地域包括支援センター職員 みんな職員(有料老人ホーム紹介機関)

参加者 栄地区 14名 若葉地区 34名

○学習会「介護保険のサービス どんな時に使うの？」

「介護保険はどんな時に利用すればいいのか」「どんなサービスを受けられるのか」「利用するといくらかかるのか」といった、日頃質問が寄せられる内容を中心に、実際の事例も交えながらわかりやすくお伝えする学習会。

日 時 平成 26 年 2 月 28 日（金） 栄地区 10 時～ 若葉地区 14 時～

場 所 さかえ会館 若葉会館

講 師 わかば地域包括支援センター職員

参加者 栄地区 18 名 若葉地区 15 名

○わかば地域包括支援センター&地域福祉コーディネーター活動報告会

高齢者支援や介護予防活動を自治会や老人会と連携して取り組んだ活動事例を参加者にも発表してもらい、地域包括支援センターの機能、地域福祉コーディネーターの機能について知っていただく報告会を開催。

- ・平成 25 年度活動報告会（若葉町）

日 時 平成 26 年 3 月 24 日（月） / 場 所 若葉会館 / 参加者 30 名

- ・平成 25 年度活動報告会（栄町）

日 時 平成 26 年 3 月 28 日（金） / 場 所 さかえ会館 / 参加者 25 名

②その他

○映画上映会「精神」（麦の会、地域包括支援センターとの共催）

啓発活動の一環として、精神障害の方と地域でともに歩むことを目的に、麦の会・地域包括支援センターとともに「精神」の映画上映会を行った。

日 時 平成 25 年 10 月 21 日（月） 10 時～

場 所 幸学習館

参加者 30 名

○学習会「アルコール依存症について」（立川断酒新生会、地域包括支援センターとの共催）

疑いのある方も含めると、およそ 300 万人いると言われているアルコール依存症。立川断酒新生会の会員よりアルコール依存症についての基本的な知識や、体験談をもとにした、地域での様々な対応法等について学習会を実施した。

日 時 平成 25 年 12 月 12 日（木） 若葉地区 13 時半～

平成 26 年 1 月 31 日（金） 栄地区 13 時半～

場 所 立川新緑クリニック 幸学習館

講 師 立川断酒新生会 会員

参加者 若葉地区 13 名 栄地区 15 名

■地域団体との協働事業

①弁天北自治会での防災学習会

日 時 平成 25 年 6 月 23 日（土）

内 容 「災害時の心構えを学び、避難所まで実際に歩いてみよう」

講 師 立川市災害ボランティアネット

場 所 栄町5丁目アパート自治会集会室および南砂小学校

参加者 21名

②けやき台団地自治会との共催による学習会・講座等

○学習会「日常生活自立支援事業・成年後見制度について」

判断力がなくなった時の生活の判断を誰に任せるのか、また亡くなったときに家族が慌てないためにどんな準備をしておくべきか、などの疑問や不安に応える講座を実施。

日 時 平成25年10月22日(火)

場 所 けやき台団地集会室

講 師 地域あんしんセンターたちかわ職員

参加者 11名

○住民懇談会「地域での支え合い活動について」

府中市にあるしんまち地域包括支援センターからの依頼を受け、わかば地域包括支援センターも含めた4者で、住民懇談会を実施。けやき台団地で行われているお助け隊やスカラモービルを中心とした地域での支え合い活動の実例をもとに、府中市住民・自治会の方たちと懇談会を行った。

日 時 平成26年3月6日(木) 14時～

場 所 新町文化センター

参加者 50名

○講座「体にいいヨガ教室」

リハビリデイサービス nagomi の理学療法士を招いて、高齢者を中心としたヨガ教室を開催。失禁対策の体操等、専門家の視点でプログラムされた健康体操を実施した。

日 時 平成26年3月15日(土) 10時～

場 所 けやき台団地集会室

講 師 リハビリデイサービス nagomi 職員

参加者 12名

③栄町地区グッドネイバーをすすめる会との共催による学習会

終末期をテーマに、「老後の生き方(エンディングノート)」「遺言書・成年後見制度について」「葬儀について」の全3回の講座を開催。

日 時 平成25年10月25日(金)、12月6日(金)、平成26年2月7日(金) 13時半～

場 所 幸学習館

参加者 102名(全3回)

④睦会自治会との共催による学習会・懇親会

自治会員の方からお声掛けいただき、地域包括支援センターとの協働で介護保険制度や地域活動についての学習会・懇談会を実施。将来の介護や災害時における不安について声が寄せられた。5月には認知症についての学習会を実施予定しており、今後も継続的に関わっていきたい。

2/25(火) 介護保険制度、地域活動について 参加者5名

■課題解決のためのしくみづくり

①ママビクス&ベビーマッサージの開催

幸学習館運営協議会に本センター職員として参画し、常時地域向けの企画を提案している。中でも子育て向けの本企画については、4年前からの定番事業となり今年度も5月から8月にかけて、全6回の連続講座を開催した。生後6ヶ月までの乳児を持つお母さん15組を対象として開催し、キャンセル待ちは10名を超えるほどの盛況である。企画を通じ、地域における子育てに関する悩みを分かち合う、貴重な機会となっている。

成果としては、サロンの立上げに結びついて地域の居場所作りが広がったこと、その参加者が人材となって各種学習会・地域活動に結びつくなど、地域活動の広がりに貢献してもらっていることが上げられる。仲間作りをしたい、という要望を始め今後も最大限応えていきたい。

②見守り保育ボランティアとの連携

ボランティア活動を始めて希望される方を中心に、見守り保育ボランティアを紹介できる体制づくりを常時行っている。中でも希望者の多い主婦層は、子育てがひと段落した方や孫の世話をされている方が多いことから、比較的入りやすい活動として定着している。活動時にボランティア相互のネットワークも期待され、今後もまちネットを中心に周知を重ね、地域での輪を拡げていく。

③ファミリーフェスタ in 立川の開催

「子育て中の方を子育て中の方たちが支援する」というコンセプトのもと、現在子育てに関わる地域の方たちが主体となり、随時子育てに関するイベントを行っている。昨年度は「子育てバリアフリー」というテーマのもと、地域で安心して子育てができる環境づくりについて、イベント（講演会・ワークショップ）を通じて発信を行った。今年度もテーマを共有しながら継続実施予定。

10/24(木) スタッフ顔合わせ、イベントについての内容確認・検討 6名

11/28(木) スタッフ顔合わせ、イベントについての内容確認・役割分担 5名

12/20(金) イベント参加者顔合わせ、スタッフ打ち合わせ 4名

12/27(金) イベント参加者顔合わせ、スタッフ打ち合わせ 4名

1/7(火) 講演会講師打ち合わせ、会場確認 5名

1/18(土) ファミリーフェスタ in 立川 開催

内容 講演会「子育てバリアフリーについて」

講 師 和田修一郎氏（ソニー生命保険株式会社）

パネルディスカッション 「それでも楽しい子育て」

パネラー 木ノ本芳子氏（特定非営利活動法人 Ki-Pot 代表理事）

青木博美氏（Step by Step 代表）

猶原奈穂氏（ほっこりパン 代表）

ワークショップ ベビーマッサージ、スクラップブックング、子育て座談会、紙芝居劇、整体・セルフケア、着せ替え衣装コーナー

場 所 さかえ会館

参加者 50名

2/7(金) スタッフ・イベント参加者とともにイベントのふりかえり 5名

3/19(水) 来年度の活動についての検討 3名

④ けやき台小学校避難所運営委員会の活動推進

平成 24 年 12 月に立ち上がった本運営委員会では、主に障害当事者や高齢者が発災時に取り残されないよう、また各自治会での災害対応と連動することが出来るようになることを目的として、定期開催されている。現在では 12 自治会の合意のもと、平成 27 年 2 月を期限に避難所運営マニュアルの改訂作業を実施、けやき台小からの公開授業の要請も請けながら、地域住民自らが参加し、学ぶ機会を常時醸成している。

5/11(土) けやき台小学校避難所運営委員会

7/20(土) けやき台小学校避難所運営委員会

11/22(土) けやき台小学校避難所運営委員会

※以降、12 自治会を「総務班」「管理情報班」「保健衛生班」「食糧物資班」の 4 班に分け、班ごとに避難所運営マニュアルの改訂作業を常時実施中。

2/8(土) けやき台小学校減災訓練（公開授業、6 年生対象）参加

《上砂町・一番町・西砂町地区》

■講演会・学習会

①茶話会・サロン活動世話人のための「手作り教室」

茶話会やサロン開催時におしゃべりをしながら取り組めるプログラムアイデアを共有することと、同一圏域内の世話人さん同士の交流を目的に開催した。

日 時 平成 25 年 11 月 12 日(火)

会 場 西砂学習館

講 師 森あけみ氏

参加者 11 名

②元気なまちフォーラム～地域のつながりさまざまなカタチ～

住民主体の地域福祉活動事例を住民発で紹介することで、新たな活動や活動者が広がることを目指し、かみすな地域包括支援センターと共催で開催した。

日 時 平成 26 年 2 月 22 日(土)

会 場 西砂学習館

内 容 地域団体からの活動紹介

発表団体:エステート・暮らしの相談室、天王橋自治会、一番町市営北住宅

参加者 25 名

■地域団体との協働事業

①地域福祉学習会「終の住処～在宅介護の支援について」

参加者が住まい方を考えると同時に、地域包括支援センターの気軽な活用にもつながっていくことを目的に、グッドネイバー西砂一番及びかみすな地域包括支援センターと共催で実施した。

日 時 平成 25 年 10 月 19 日(土)

会 場 西砂学習館

講 師 かみすな地域包括支援センター職員、かみすな福祉相談センター職員

参加者 21名

②シングルマザーカフェ

多忙で孤立しがちなシングルマザーが、同じ立場にある者同士でつながり、情報交換できる機会をつくるために西砂児童館(NPO 法人ワーカーズコープ)と共催、ひとり親の会立川マザーズ協力のもと試行実施。大雪の影響で試行機会とならなかったため次年度に再検討となった。

日 時 平成26年2月16日(日)

会 場 西砂児童館

参加者 2名

③子育てサポート講座「子育てに活かすソーシャルスキルトレーニング」

発達に凸凹がある子どもを育てている保護者を主対象に、家族だけで悩み、抱え込んで孤立を防ぐことを防止するために開催した。

西砂児童館とは、「子どもを軸に世代を超えて住民がつながる拠点としての児童館」の共有イメージを持ちながら今後も引き続き協働事業を継続していく。

日 時 平成26年3月8日(土)

会 場 西砂児童館

講 師 都立青峰学園教諭・NPO 法人日本ポーターズ協会監事 萩原稔氏

参加者 14名

■課題解決のためのしくみづくり

○災害時要援護者を地域で支えるしくみづくり

平成23年3月11日の震災を受けて、災害時に近隣住民同士が助け合えるための取り組みが急務となった。特に高齢者や障害者、子ども、外国人など災害時において普段以上にサポートが必要となる人たちを支えるしくみづくりを広げていくこととなった。

災害時を想定しての取り組みは、日常での孤立防止にもつながるという視点で引き続き、多様な機会を捉えて臨んでいく。

・自治会連合会との連携

6/11(火) 砂川支部防災ワークショップ①

7/ 4(木) 防災課による災害時要援護者対策説明会(西砂支部)

7/11(木) 自治連砂川支部防災訓練

7/24(水) 砂川支部防災ワークショップ②

7/26(金) 防災課による災害時要援護者対策説明会(砂川支部)

7/30(火) 自治連西砂支部避難所運営委員会

9/ 1(日) 総合防災訓練時に西砂支部3避難所で市職員訓練見学

9/16(月) 西砂支部防災訓練実行委員会

9/28(土) 砂川支部防災ワークショップ③(まち歩き)

10/15(火) 西砂支部防災訓練実行委員会

10/20(日) 西砂支部防災訓練(宮沢組、希望ヶ丘自治会で一時集合場所への集合訓練)

- 1/15(水) 砂川支部防災ワークショップ④(防災マップ作成)
- ・地域自治会などとの連携・協力
- 5/11(土) エステート立川一番町管理組合防災学習会
- 5/26(日) 一番町 1-1 地区防災学習会
- 7/24(水) ハイホーム立川一番町マンション内防災活動懇談
- 8/ 3(土) 親交自治会役員会(民生委員・包括と共に防災・安否確認について懇談)
- 8/ 4(日) ハイホーム立川一番町自治会とハイホーム立川参番館自治会懇談会
- 9/29(日) 天王橋自治会安否確認シミュレーション・防災学習会
- 10/5(土) 親交自治会役員会に民生委員と参加 地域防災活動事例などご紹介
- 10/15(火) 希望ヶ丘自治会安否確認訓練打合せ
- 3/ 9(日) 松中団地防災訓練・安否確認シミュレーション

(5) 寄せられる相談とコーディネーター活動について

制度やサービスの狭間にあること、担当窓口がはっきりと構築されていないもの、異分野・異業種をつなぐ必要があるもの、住民の自治力の発揮が必要とされるものが、コーディネーターに寄せられる相談の特徴である。

狭義の福祉領域や既存のシステムにとらわれず、住民と生活課題を主体にしながら進めている。

ひとつの相談から地域活動の創出が出来ること、共に取り組むパートナーが「個」「グループ」「専門機関」「当事者」「営利」「非営利」など、多彩であることが大きな強みである。

また、3 地区とも地域包括支援センターに机を置いて協働しているのも大きな特徴である。協働内容は高齢者の介護予防的な取組みだけでなく、高齢者の家庭で子どもの問題や引きこもりの問題があれば適切な窓口を探したり、防災の取組みでは災害時要援護者への対応と位置づけて自治会活動への支援や介護保険事業者とのネットワークづくりを試みるなど、多くの点でそれぞれの資源と情報を持ち寄って協働している。

※相談件数の数え方は、1つの相談を1件とせず、1つの相談がある程度終了するまで時間をとって活動した回数としている。例えば1つの相談に関連して3回の訪問やコーディネートをした場合は3件となる。

《錦町・羽衣町地区》

	活動件数	連絡調整（件） ※各種団体の定例会出席、団体間やボランティアの引き合わせ等	普及啓発（件） ※地域福祉市民活動計画やコーディネーターの説明、介護予防、サロン普及啓発等	調査研究（件） ※自治会長や関係機関へのヒアリング、団体活動訪問、情報収集等
4月	64	28	6	6
5月	63	28	23	4
6月	73	42	8	9
7月	84	34	4	29
8月	76	40	6	9
9月	74	39	4	8
10月	76	46	2	6
11月	59	22	9	7
12月	66	32	5	1
1月	86	42	10	8
2月	60	23	3	3
3月	70	43	1	5
合計	851	419	81	95

	各種相談（件）										月合計
	見守り/介護	生計	住居	虐待	家事	市民学習	子ども	ボランティア	その他	災害関係	
4月	1	0	0	1	0	0	0	3	12	5	22
5月	2	0	0	1	0	0	0	1	8	0	12
6月	12	1	0	0	0	0	0	4	9	0	26
7月	8	2	0	0	0	0	1	4	15	1	31
8月	12	5	0	6	0	1	0	6	9	0	39
9月	5	9	0	3	0	1	0	7	10	0	35
10月	6	2	0	0	0	0	2	7	14	0	31
11月	2	0	0	0	0	0	0	3	7	0	12
12月	12	0	0	0	0	0	0	6	7	0	25
1月	5	0	0	0	0	0	2	5	13	0	25
2月	9	0	0	0	0	0	0	6	16	0	31
3月	9	2	0	0	0	0	1	7	15	1	35
合計	83	21	0	11	0	2	6	59	135	7	324

《栄町・若葉町地区》

	活動件数	連絡調整（件） ※各種団体の定例会出席、団体間やボランティアの引き合わせ等	普及啓発（件） ※地域福祉市民活動計画やコーディネーターの説明、介護予防、サロン普及啓発等	調査研究（件） ※自治会長や関係機関へのヒアリング、団体活動訪問、情報収集等
4月	77	36	22	23
5月	102	36	27	58
6月	92	26	15	49
7月	86	20	11	24
8月	86	13	16	33
9月	87	14	27	49
10月	96	23	27	48
11月	100	15	30	75
12月	80	21	25	50
1月	82	25	41	63
2月	68	11	24	48
3月	89	18	21	64
合計	1045	258	286	584

	各種相談（件）										月合計
	見守り/介護	生計	住居	虐待	家事	市民学習	子ども	ボランティア	その他	災害関係	
4月	4	1	0	2	1	1	1	4	6	1	21
5月	5	1	1	1	4	2	1	3	19	8	45
6月	2	1	0	1	0	0	2	5	11	6	28
7月	2	2	0	0	0	0	3	2	7	5	21
8月	1	3	0	0	0	2	2	6	3	3	20
9月	4	1	1	0	0	1	4	3	8	2	24
10月	6	0	0	1	0	0	5	7	8	9	36
11月	13	2	1	1	0	0	4	3	6	9	39
12月	4	3	0	0	0	1	5	5	12	11	41
1月	3	0	1	0	0	0	4	11	4	12	35
2月	7	1	0	0	0	0	4	9	4	7	32
3月	1	1	1	0	0	0	1	9	6	3	22
合計	52	16	5	6	5	7	36	67	94	76	364

《上砂町・一番町・西砂町地区》

	活動件数	連絡調整（件） ※各種団体の定例会出席、団体間やボランティアの引き合わせ等	普及啓発（件） ※地域福祉市民活動計画やコーディネーターの説明、介護予防、サロン普及啓発等	調査研究（件） ※自治会長や関係機関へのヒアリング、団体活動訪問、情報収集等
4月	91	29	15	20
5月	122	58	13	16
6月	101	42	15	15
7月	92	41	4	16
8月	94	45	6	22
9月	95	53	3	8
10月	95	51	4	10
11月	87	46	3	9
12月	77	25	2	11
1月	68	37	9	1
2月	88	36	13	18
3月	88	47	1	15
合計	1098	510	88	161

	各種相談（件）										月合計
	見守り/介護	生計	住居	虐待	家事	市民学習	子ども	ボランティア	その他	災害関係	
4月	5	0	0	0	1	1	3	7	37	6	55
5月	1	2	2	1	0	1	15	2	41	4	69
6月	8	6	0	1	0	0	6	2	28	3	54
7月	7	0	0	0	0	0	6	2	26	9	50
8月	6	2	0	0	0	3	1	8	16	8	44
9月	4	1	2	0	0	3	2	6	22	6	46
10月	5	1	0	0	0	0	6	4	19	6	41
11月	3	1	0	0	0	0	0	3	24	0	31
12月	5	0	0	0	0	0	1	1	21	0	28
1月	6	0	0	0	0	1	2	2	10	5	26
2月	3	2	0	0	0	0	4	1	17	1	28
3月	1	0	0	0	0	0	4	1	22	0	28
合計	54	15	4	2	1	9	50	39	283	48	500

Ⅲ. センター運営の活動の柱

「運営委員会」 市民参画によるセンター運営

「協働の推進」 「市民力と連携のまちづくり」を前進させる

「地域づくり」 地域の課題を地域で解決するしくみづくり

「市民活動支援」 人と人々が参加し、つながりあう豊かな社会をつくる

1. 市民参画の運営委員会によるセンター運営

(1) 運営委員会

市民によるセンター運営を進めていくため、センターのあるべき姿を探求しながら、事業の企画・推進・評価を市民による運営委員会で行った。また、3つの専門委員会である「課題解決実行委員会」「団体支援委員会」「事業推進委員会」については、委員改選により5月までとなり、6月から改選を機に専門部会として、「協働支援センター部会」「地域活動支援センター部会」「ボランティアセンター部会」とし、委員会自身が具体的実践活動を展開しながら「市民活動とは何か」を捉えなおし、豊かにし続ける場となっている。

■運営委員

20名 (氏名/選出時区分) 任期:平成25年6月19日～平成27年6月18日

運営委員長 宮本直樹/社会福祉協議会理事
副委員長 石原康博/特定非営利活動法人団体
井上英徳/企業
井村良英/特定非営利活動法人団体
岩間直人/ボランティア団体
海老塚香/特定非営利活動法人団体
江夏馨/ボランティア団体
小川和美/関係行政機関
菊池寛樹/企業
北澤明/ボランティア団体
佐藤達夫/市民
芝田達矢/立川商工会議所
関根義矢/市民
豊泉裕/市民
菱沼秀行/ボランティア活動推進団体
廣瀬麻美/特定非営利活動法人団体
山尾桂子/市民

山本晶子／ボランティア団体
山家利子／特定非営利活動法人団体
横溝 大樹／企業

○運営委員会 開催回数：4回（※ ①は改選前の委員による開催）

- ① 6/5(水) 平成24年度事業報告について
運営委員の改選について
- ② 7/18(木) 委嘱状伝達
運営委員長の選任及び副委員長の指名
市民活動センターたちかわ運営委員会について
運営委員研修について
- ③ 10/23(水) 平成25年度上半期事業報告について
- ④ 3/17(火) 平成26年度事業案内(案)について
平成26年事業計画(案)について

○課題解決実行委員会 開催回数:2回

センター開設から積み上げてきた相談や事業実績を分析し、解決すべきことは実行する。

- ① 4/16(火) 市民活動センターに寄せられる相談について
- ② 5/20(月) 市民活動センターの窓口レイアウトについて

○団体支援委員会 開催回数:2回

助成事業や市民活動団体向けの講座企画・実施など多様な団体支援の手法について検討を行なう。

- ① 4/30(火) 平成24年度市民活動センターたちかわ助成金報告
団体登録について
- ② 5/28(火) 支え合いサロン助成事業実施要綱について
市民活動センターたちかわ団体登録要綱について
立川市社会福祉協議会市民活動助成実施要綱について

○事業推進委員会 開催回数:2回

おもしろボランティア大学や市民活動団体との協働企画などを検討、実施した。

- ① 4/19(金) 「春の楽市案内人ボランティア」について
第34回おもしろボランティア大学について
- ② 5/23(木) 「春の楽市案内人ボランティア」振り返り
第34回おもしろボランティア大学について

○協働支援センター部会 開催回数:5回

社会貢献や地域活動等に参加したい人の為に、一歩踏み出せない人の為のきっかけや出会いの場づくりを検討し、実行する

- ① 8/20(火) 協働支援センター部会について
部会長について
秋の楽市案内人ボランティアについて
第34回おもしろボランティア大学について
- ② 10/2(水) 副部会長について
第34回おもしろボランティア大学振り返り
秋の楽市案内人ボランティアについて
- ③ 11/11(月) 秋の楽市案内人ボランティア振り返り
部会の方向性について
- ④ 1/24(金) 部会の方向性について
- ⑤ 3/7(金) 事業案内等部会の紹介文について
SNSやホームページについて

○地域活動支援センター部会 開催回数:5回

今、取り組むべき地域福祉課題を選定し、その啓発や課題解決のための講座を企画実施する

- ① 8/23(金) 地域活動支援センター部会について
部会長について
- ② 10/4(金) 地域課題について
- ③ 11/25(月) 課題解決事例について
- ④ 1/10(金) 地域課題について
- ⑤ 2/27(木) 錦町地域懇談会の課題について
取り組みについて

○ボランティアセンター部会 開催回数:6回

市民活動センターの理念や捉えるべき社会問題を整理・検討した企画・仕組み作りに取り組む

- ① 8/27(火) ボランティアセンター部会について
部会長について
- ② 10/8(火) ボランティアセンター部会について
助成金報告について
- ③ 11/8(金) ボランティアセンター部会について
- ④ 12/10(火) 市民活動センターの課題について
社協のPRについて
- ⑤ 1/29(水) 市民活動センターの課題について
生活困窮者自立支援制度について
- ⑥ 2/24(月) 生活困窮者自立支援制度について

2. 協働の推進

(1) 市民と行政との協働の推進

■たまがわ・みらいパーク企画運営委員会への支援

平成 16 年 4 月に廃校となった旧立川市立多摩川小学校について、市民の声を反映した跡地の活用方法の実現を目的に市民委員会が発足し、提言を平成 18 年 1 月に市長へ提出した。

平成 18 年 4 月からは旧立川市立多摩川小学校運営協議会が発足。センターは、基本コンセプトの具現化や市民と行政との新しい協働型の運営、運営体制、施設・設備管理・プログラム実施に関するルールをまとめていくための支援を担った。

平成 19 年度から、市民会議に関わった市民を中心に「たまがわ・みらいパーク企画運営委員会」が立ち上がり、プログラムの企画・実施などの運営を行なっている。センターは市民、行政と協働しながら施設を運営していくために、企画会議への参加などを通じて側面的な支援を行なった。

地域の活性化を行うため、平成 26 年 1 月から月 1 回フリーマーケットや朝市開催時に障害者団体が出店できるよう、企画運営委員会へ団体の紹介をした。

■春・秋の楽市

国営昭和記念公園みどりの文化ゾーンで、春と秋に開催される楽市の企画運営委員会に所属して、市民活動団体の PR や財源確保の場を提供するために、団体出店の取りまとめを行った。

日 時	①春の楽市 平成 25 年 4 月 21 日(日) ②秋の楽市 平成 25 年 11 月 3 日(土)・11 月 4 日(日)
場 所	国営昭和記念公園みどりの文化ゾーン
参加団体	市民活動センターたちかわ登録団体 春の楽市 15 団体 ②秋の楽市 20 団体

■立川市計画策定のための会議

平成 27 年度から施行される立川市の様々な計画策定のための会議に関係団体として出席し、市民と行政によるまちづくりを進めるために積極的に関与した。

- 1)第 4 次長期総合計画検討市民会議
- 2)第 3 次地域福祉計画策定検討委員会
- 3)第 2 次地域防災計画策定市民会議

(2) 関係機関・団体との協働事業の実施や支援

関係機関・団体の定例会への参加や協働事業などを通して地域課題の解決を図った。

- ・立川市民生委員・児童委員協議会地区定例会
- ・立川市地域ケア会議
- ・立川市小地域ケア会議
- ・立川市地域包括支援センター介護予防業務連絡会
- ・立川市地域包括支援センター事務連絡会

- ・立川市子ども支援ネットワーク
- ・立川市地域学習館運営協議会
- ・災害対策ネットワーク会議
- ・立川市地域猫活動団体連絡会
- ・たちかわ創業応援プロジェクト
- ・タチカワコミュニティビジネスプロジェクト
- ・立川市人権学習事業実行委員会
- ・子ども若者支援ネットワーク会議

■障がいのある人もない人も暮らしやすい立川を考える会

千葉県では、平成 18 年に「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」が日本で初めて制定された。立川でも、同様の条例をつくりたいと障害者団体からの呼びかけがあり、障害種別を超えて市内の障害当事者や親の会、事業者などが協働し「障がいのある人もない人も暮らしやすい立川を考える会」が結成された。

障害についての理解を深め、障害ゆえの差別とは何かを市民と共に考え啓発する学習活動と、地域での懇談会などの開催を続けている。

昨年末には、障がいのある人もない人も暮らしやすい立川をつくる条例の制定の請願を提出し、12 月 10 日の厚生産業委員会で採択、20 日の本会議においても全会派の賛成で採択された。

<構成団体>H25. 3 末現在

NPO 法人自立生活センター・立川／立川市手をつなぐ親の会／
立川市精神障害者家族の会（麦の会）／立川市肢体不自由児者父母の会・たつのこ／
在宅障害者の保障を考える会／中途失聴・難聴者「つばさの会」立川／
「今を生きる！」難病の会立川／一般社団法人 animo／社会福祉法人幹福社会／
ヘルプ協会たちかわ／NPO 法人多摩在宅支援センター円／高次脳機能障害の会・スマイル立川
／社会福祉法人すみれ会／NPO 法人立川マック

①講座「障害者差別禁止条例がまちに吹かせた風 2」

日 時 平成 25 年 6 月 8 日(土)
場 所 立川市総合福祉センター 視聴覚室
内 容 誰もが暮らしやすい条例づくりとその意義について
講 師 毎日新聞論説委員 野沢和弘氏
参加者数 75 人

②講座「今わたし達に準備できること」

日 時 平成 25 年 9 月 13 日(金)
場 所 柴崎学習館 第二教室
内 容 被災者障がい者の体験から
参加者数 46 人

(3)企業等との協働事業の実施や企業の社会貢献活動の支援

■ふれあいミュージックフェスティバル 2013

東京ガス(株)多摩支店、国立音楽大学との協働により平成 25 年度で第 21 回目の開催を迎えた。

この催しは障害のある方や、日頃クラシックコンサートに接しにくい方でも安心して参加できる取り組みとして開催している。当日の運営に多くのボランティアに協力いただき、車椅子・ストレッチャーを使用されている方の会場誘導などを行っている。

例年楽しみにされている市民が多く、当日アンケートに寄せられる声からも満足度は高い。また市内福祉施設で、当日の来場が難しい方へ国立音楽大学学生による出張コンサートを実施し好評を得た。

開催日 平成 25 年 11 月 10 日(日)
会場 国立音楽大学講堂・大ホール
内容 ハンドベル演奏、オルガン独奏、金管バンド・アンサンブル 他
来場者 909 名
入場料 無料

ボランティア 会場設営、交通誘導、募金呼びかけなど、35 名のボランティアの方にご協力いただいた。また、車イス介助の仕事として、若者支援 NPO 法人「育て上げ」ネットの方 6 名にもご協力いただいた。

プレコンサート

- ① 8/10(土) 介護老人保健施設 至誠キートスホーム/サクソフォーン・エレクトーン演奏
- ② 8/17(土) 介護老人保健施設 わかば / 木管五重奏
- ③ 8/31(土) 介護老人福祉施設フェローホームズ / フルート五重奏
- ④ 9/14(土) 介護老人福祉施設 敬愛ホーム / 重唱
- ⑤ 9/28(土) 地域デイサービス テイクオフ / 金管四重奏
- ⑥ 10/12(土) こらそん / フルートトリオ

特別協賛 東京ガス株式会社 多摩支店

後援 立川市、国立音楽大学、(財)立川市地域文化振興財団、読売新聞東京本社立川支局

■企業の CSR 活動や社員研修への協力

企業から寄せられる「寄附がしたい」「CSR(企業の社会的責任)活動がしたい」「社会貢献できる人材育成プログラムを実施したい」といったご相談を受け、実施のための支援を行った。

○CSR 活動のご相談

多摩信用金庫、立川商工会議所、青梅信用金庫、株式会社図書館流通センター、株式会社プルデンシャル生命保険

○社員研修への協力

・三菱東京 UFJ 銀行

内容 市内 9ヶ所の施設・団体で 40 名の新入社員がボランティア体験
日時 平成 25 年 5 月 21 日(火)・5 月 23 日(木)

協力団体 フェローホームズ、やわらぎホーム・西立川、ワークセンターまことくらぶ、高齢社会の食と職を考えるチャンプルーの会、花音、「育て上げ」ネット、星槎国際高等学校立川学習センター、立川市社会福祉協議会高齢者デイサービスセンター、立川市社会福祉協議会生活介護支援事業所

・多摩信用金庫

内 容 市内 12 ヶ所の施設・団体で 95 名の新入社員がボランティア体験
日 時 平成 25 年 7 月 16 日(火)・7 月 17 日(水)・7 月 18 日(木)・7 月 19 日(金)
7 月 23 日(火)・7 月 24 日(水)

協力団体 フェローホームズ、至誠ホーム、至誠キートスホーム、花音、幸児童館、西立川児童館、しらゆり福祉作業所、立川福祉作業所、立川市社会福祉協議会高齢者デイサービス、立川市社会福祉協議会生活介護支援事業所富士見福祉作業所、栄福祉作業所

(4)防災・減災活動の取り組み

■立川市総合防災訓練への参加

立川市社会福祉協議会では、立川市との協定により、発災時に災害ボランティアセンターの設置運営を行うことになっている。しかし、その機能や役割が十分に市民に周知されていないという課題がある。そのため、立川市で毎年実施している総合防災訓練のメイン会場にて『立川市災害ボランティアネット』に協力いただき、災害ボランティアセンターに関する啓発・パネル展示を実施し、来場者に災害ボランティアセンターを理解してもらうことで、発災時にその機能が活かされるよう周知を図った。併せて総合福祉センターでも数日間に渡り「防災食料備蓄」の展示等を実施した。

また、25 年度は、総合防災訓練当日に立川市職員によって行われる、避難所 30 か所と立川市災害対策本部とを結ぶ「同時防災無線訓練」に、総合福祉センターとして初めて試行的な参加訓練を行った。これを機会に、職員間での総合福祉センター防災無線訓練を、まず社協内で数回行い、災害時を想定した実践的な訓練のためのシミュレーションを重ねてきている。

日 時：平成 25 年 9 月 1 日(日) 9:00~12:00

場 所：幸小学校

※当日は約 106 名の市民が立ち寄った。

■災害対策ネットワーク会議の開催

災害ボランティアセンターの機能や役割を周知させるとともに、立川市内の関係機関や組織と災害時に相互の協力体制を確立するため、各機関の役割や取組みを共有する場を設けた。来年度以降も定期的な開催を考えている。参加機関・団体についても取組み状況に応じて拡大を図っていく。

日 時：平成 26 年 3 月 17 日(月) 19:00~21:00

場 所：立川市総合福祉センター 2 階 視聴覚室

参加機関・団体

○立川市 防災課・協働推進課

- 立川商工会議所
- JCN マイテレビ
- エフエムたちかわ
- 立川市赤十字奉仕団
- NPO 法人たちかわ多文化共生センター（TMC）
- 真如苑救援ボランティア（SeRV）
- 立川市災害ボランティアネット
- 公益社団法人立川青年会議所

(5) 各種企画委員会やプログラムへのスタッフ派遣

■関係機関が主催する委員会等へのセンタースタッフの参加

関係団体や行政機関などが主催する各種委員会、研究会にセンタースタッフ自身が参画することで、新たなニーズや情報を掴み、ネットワークづくりをする機会とした。

- ・立川市人権学習事業実行委員会
- ・立川市文化芸術のまちづくり協議会
- ・幸児童館運営委員会
- ・「楽市」企画運営委員会
- ・世界ふれあい祭実行委員会
- ・砂川高校定時制課程学校運営連絡協議会
- ・東京ボランティア・市民活動センター センター長会議
- ・東京ボランティア・市民活動センター 事務局連絡会議
- ・北多摩西部ブロックボランティア担当者会議
- ・夏体験ボランティア 市区町村 担当者連絡会議
- ・災害ボランティア担当者連絡会議
- ・NPO 担当者連絡会議
- ・創業応援プロジェクト
- ・立川市若者等育成支援ネットワーク会議
- ・東京都社会福祉協議会「暴力虐待を生まない社会づくり検討委員会」

■センタースタッフによる講師等の派遣

関係団体が実施する講座、講演会等にスタッフを派遣し、協働した。

- ・三菱東京 UFJ 銀行新任社員研修
- ・多摩信用金庫新人職員研修
- ・砂川学習館運営協議会
- ・福祉あすなろ会
- ・無印会
- ・第5地区小地域ケア会議
- ・北多摩西部ブロック職員連絡会ボランティアセンター部会合同研修

- ・3・11 東日本大震災を忘れない集い
- ・昭島市社会福祉協議会職員研修

(6)小中学校の介助員事業の充実とコーディネート

立川市が配置する通常学級における小中学校介助員について、高齢者や障害者のヘルパー派遣事業所から職員が配置されるようになって3年余りが経過している。センターは新制度導入より、立川市教育委員会、学校、事業所間の、教育と福祉という異なった分野のコーディネートを行ってきた。

本年度は、修学旅行、スキー移動教室等の宿泊を伴う行事など、新たな課題に直面する年であったが、介助員制度でどこまで対応可能かといった丁寧な話し合いや課題出しに努め、学校、教育委員会とともに、体制の整備・充実を図ってきている。

また、中学の通常学級へと進学する生徒が多かったが、今後は、中学校卒業に向けて、自立に向けた介助員の関わり方を、教育委員会、学校と共に考えていくことが重要であり、統合教育の実現に向けて進めていきたい。

■介助員にかかる、市と事業者、学校間のコーディネート

- ・対象校／12校
第一小学校、第三小学校、第五小学校、第九小学校、けやき台小学校、西砂小学校、大山小学校、上砂川小学校、新生小学校、第三中学校、第五中学校、第八中学校
- ・対象児童・生徒／16名
- ・事業者数／6事業者（※「かっこ」は事業者名）
特定非営利活動法人ケア・センターやわらぎ「ケア・センターやわらぎ・立川」
社会福祉法人にんじんの会 「ケアステーションにんじん・立川」
社会福祉法人にんじんの会 「ケアステーションにんじん・玉川上水」
医療法人社団東京石心会 「立川介護老人保健施設わかば」
一般社団法人 animo 「animo」
社会福祉法人立川市社会福祉協議会 「立川市社会福祉協議会ホームヘルプサービス」

○会議等の開催／27回

- ・事業者連絡会議／1回
- ・教育委員会等との会議・打合せ／5回
- ・学校、保護者、事業者等との会議・打合せ・面談／9回
- ・介助員全体研修／1回
(※ その他、車いす昇降機訓練など、事業所別研修等への開催調整、立会いを行った)

3. 地域づくり

(1) 地域懇談会の開催

■町単位での取り組み

○錦町・羽衣町

○栄町・若葉町

○上砂町・一番町・西砂町

「2. 平成 25 年度の地域福祉コーディネーターの取組み」に前掲。

○幸町

	日時・会場	主な協議内容
1	平成 25 年 4 月 1 日(月) 幸学習館 参加者 14 名	・日帰りバス研修について ・まち歩き企画について
2	平成 25 年 4 月 22 日(月) 参加者 47 名	・日帰りバス研修
3	平成 25 年 5 月 14 日(月) 幸学習館 参加者 13 名	・日帰りバス研修の振り返り ・まち歩きについて
4	平成 25 年 6 月 3 日(月) 幸学習館 参加者 11 名	・まち歩きについて ・地域課題や今後について
5	平成 25 年 7 月 1 日(月) 幸学習館 参加者 12 名	・幸町地域懇談会の活動について ・地域課題や今後について
6	平成 25 年 8 月 5 日(月) 幸学習館 参加者 13 名	・まち歩きについて ・幸町地域懇談会の活動について
7	平成 25 年 9 月 2 日(月) 幸学習館 参加者 12 名	・あいあい通信 10 月号原稿について ・あいあいプラン策定に向けての地域懇談会について
8	平成 25 年 10 月 7 日(月) 幸学習館 参加者 12 名	・まち歩きについて ・あいあいプラン策定に向けての地域懇談会について
9	平成 25 年 10 月 21 日(月)参加者 14 名	・幸町まちあるきプレ企画
10	平成 25 年 11 月 12 日(月) 幸学習館 参加者 9 名	・まち歩きの振り返り ・あいあいプラン策定に向けての地域懇談会について
11	平成 25 年 11 月 30 日(土) 幸学習館 参加者 38 名	・あいあいプラン第一回幸町地域懇談会
12	平成 25 年 12 月 16 日(月) 幸学習館 参加者 15 名	・あいあいプラン第一回幸町地域懇談会 振り返り
13	平成 26 年 1 月 15 日(土) 幸学習館 参加者 34 名	・あいあいプラン第二回幸町地域懇談会

14	平成 26 年 2 月 3 日 (月) 幸学習館 参加者 11 名	・あいあいプラン幸町地域懇談会振返り ・今後の取組について
15	平成 26 年 3 月 3 日 (月) 幸学習館 参加者 12 名	・幸町地域懇談会での取組について

■地区単位での取り組み

「障がいのある人もない人も暮らしやすい立川を考える会」(前掲)と協働して、地区単位で懇談会を行った。

○1 地区 (富士見町・柴崎町)

- ・ 5/8 参加者 7 名、6/19 参加者 6 名、7/31 参加者 5 名、8/22 参加者 25 名、
9/10 参加者 6 名、11/26 参加者 4 名、2/12 参加者 4 名、3/29 参加者 16 名

○2 地区 (錦町・羽衣町)

- ・ 5/7 参加者 9 名、6/11 参加者 9 名、7/2 参加者 8 名、8/1 参加者 20 名、
9/3 参加者 10 名、10/15 参加者 6 名、11/25 参加者 10 名、1/14 参加者 6 名
2/25 参加者 6 名、3/27 参加者 6 名

○3 地区 (曙町・高松町・緑町)

- ・ 5/22 参加者 6 名、6/12 参加者 31 名、12/20 参加者 4 名、12/26 参加者 3 名、
1/8 参加者 4 名、1/18 参加者 23 名

○4 地区 (栄町・若葉町)

- ・ 5/17 参加者 7 名、6/21 参加者 30 名、7/8 参加者 40 名、9/4 参加者 10 名、
10/3 参加者 11 名、11/14 参加者 12 名、12/14 参加者 20 名、1/17 参加者 10 名
3/3 参加者 12 名

○5 地区 (幸町・柏町・泉町・砂川町)

- ・ 4/30 参加者 8 名、5/31 参加者 4 名、7/1 参加者 8 名、8/18 参加者 28 名、
9/17 参加者 5 名、1/15 参加者 3 名、2/4 参加者 4 名、2/28 参加者 13 名

○6 地区 (上砂町・一番町・西砂町)

- ・ 5/8 参加者 17 名、6/18 参加者 4 名、8/23 参加者 11 名、9/13 参加者 52 名、
10/4 参加者 12 名、11/15 参加者 12 名、1/17 参加者 6 名、3/4 参加者 11 名

(2)グッドネイバー運動推進団体、地域関係団体との連携

市民が地域の中で、共に学び、参加し、支え合うまちづくりをすすめる目的で、市内 4 ヶ所 (栄町、若葉町、柴崎町、西砂町・一番町) にグッドネイバー運動推進団体を指定し、活動費の助成や情報交換を行っている。平成 16 年に行なった本会の地域福祉市民活動計画及び立川市の地域福祉計画の策定時は、この 4 地区で地域懇談会を開催し、両計画に反映させた。

平成 19 年度からは栄町・若葉町、平成 22 年度から上砂町・西砂町・一番町を対象に地域福祉コーディネーターが配置され、連携を図りながら地域活動を展開している。

西砂町・一番町では松中小学校内ふれあい交流室での子どもの見守り活動が定着し、地域の中で大きな力となっている。また、柴崎町では学校と地域のつなぎ役として子どもの居場所づくりだけ

ではなく、生活支援講座の中で、地域課題を共に考え、解決できるような機能も果たしている。本センターとしては、地域での協議の場をつくり出すような役割を引き続き果たしていくことも期待している。

(3)住民グループの組織化支援

■支えあいサロンの推進

市民の孤立を防ぎ、身近な地域の中で緩やかなつながりを継続できる場として、隣近所単位のたまり場活動である「支えあいサロン」の運営を支援している。

登録グループは、子育て中の人が多く集うサロンと、高齢者中心のサロンとに分けることができる。開催されているサロンの中には、防災活動やサロン開催時以外の時間帯での見守り活動につながる取り組みをしているところもあり、地域への波及効果の高さを改めて認識できた。今年度は高松町、曙町において健康体操や高齢者中心のサロンや子育てのサロンが増え、登録サロン数は昨年度に比べ26団体増加した。高齢社会における重要な取り組みの一つであるので、今後も新たな人材発掘にも力を入れ、一つでも多くサロンが立ち上がるよう支援していきたい。

○登録サロン数 120カ所 (※)

- ・高齢者サロン：90カ所
- ・子育てサロン：27カ所
- ・その他のサロン：3カ所

※平成25年度中に活動した登録サロン数（年度中に解散した数を含む）

(4)学校を核とした市民学習支援、地域づくり

市内の小中学校から依頼を受けて、総合的な学習の時間や一般科目の中で、福祉教育、市民学習に関する、学校と市民のコーディネートを行った。この取り組みは、NPO 法人自立生活センター・立川、障害当事者、地域の高齢者、市民活動団体の活動者、商店街店主、行政職員など、さまざまな市民と協働して進めている。

数年来の取り組みの中では、肯定的な変化として地域の支援者が着実に市民学習を支援する力をつけていることが挙げられる。それは生徒たちとのやり取りが向上したということに留まらず、学校との打合せにおいてプログラムを協働で作成する力や、コーディネートをする力も身に付いているということである。プログラムの内容についても、学校の実情に合わせて臨機応変に作成してきたため、経験が蓄積されている。

■学校への学習支援や出前講座の実施(相談のみも含む)

学校におけるプログラム実施の中で、地域の課題にも触れることが多くある。と同時に、学校の抱える悩みは、地域の状況を反映しているともいえる。学校での取り組みは、地域の教育力を高める機会でもあると捉え、単にプログラム提供に留まらず、住民を視野に入れて活動してきた。今後は、立川市社会福祉協議会の使命「住民主体による福祉コミュニティづくり」を推進していくため、地域の支援者が主体となる市民学習支援のコーディネートを展開していく。

■立川市教員研修への協力

立川市教育委員会が主催する福祉教育をテーマにした参加型・体験型学習の研修に協力した。平成12年から、地域の障害のある方々に協力をいただきながら実施してきた。実施方法も定着してきたことから、NPO 法人自立生活センター・立川が中心となり、教員の資質向上に寄与した。

日 時	平成25年7月30日(火) 9時30分～15時30分
場 所	柴崎学習館 第2学習室
参加者	立川市の教員8人
内 容	・「出前講座の取組と障がいのある方と共に活動することについて考える」 ・「見えない障害(心の障害)を知る」
主 催	立川市教育委員会・NPO 法人自立生活センター・立川

■都立高校の奉仕体験活動の支援

都立高校において導入された奉仕体験活動への具体的なプログラム作成の協力や、社会資源の情報提供を市内の3校(5課程)に対して行なっている。平成19年度に実施されてから、学校と協力者や市民活動団体とのつながりができ、より効果的なプログラムづくりができています。25年度は、夏!体験ボランティアのプログラムメニューを利用して活動している高校もある。

(5)地域コミュニティ防災活動等への住民参加の促進とネットワークづくりの推進

地域での防災・防犯に関する懇談会やまち歩きなどを開催したほか、立川市災害ボランティアネットと連携して、防災活動のネットワークづくりを推進した。また、防災モデル地区事業や、小学校を拠点とした町単位での地域防災訓練などへ参画し、住民参加を促進した。

■懇談会、まち歩き等の開催、協力

- ・自治会などでの防災学習会の開催
- ・立川市防災モデル地区推進事業への参画
- ・地域防災訓練への参画(前掲)

■立川市災害ボランティアネットとの連携

平成21年より、被災地を支援した経験のある市民を中心に、立川市及び首都圏での震災発生に備えたネットワークづくりを目的とし発足された、立川市災害ボランティアネットと連携して、地域懇談会での災害に備える啓発活動や、発災時の災害ボランティアセンター設置・運営マニュアル策定への協力、災害ボランティアリーダー養成、定例会の開催など、本会と連携した活動を行っている。

<災害ボランティアリーダー養成講座>全7回(受講生 45名)

- ① 7/6(土)「立川で想定される災害について」講演
- ② 7/21(日)「防災まち歩きとDIG」講演
- ③ 8/3(土)「応急救護(普通救命技資格講習)」訓練
- ④ 8/24(土)「救護(スタートトリアージ)」訓練
- ⑤ 9/7(土)「防災倉庫にあるものを使った炊き出し」訓練

- ⑥ 9/21 (土) 「災害ボランティアセンター立ち上げ」訓練
- ⑦10/ 5 (土)「要援護者から見た災害対策」講演
- * 3/29 (土) 養成講座卒業生フォローアップと交流の集い (25年度初めての試み)

(6)震災避難者の孤立化防止事業

震災避難者の方に定期的に電話かけなどを行い、その中から支援が必要と思われるケースがあれば、市民活動センターたちかわの地区担当者や地域包括支援センター、行政、民生委員など、関係機関と連携し個々の状況に応じた、支援を行っている。震災後、3年が経過した現在は、借り上げ住宅など、避難者支援がいつまで続くのかという相談と共に、高齢者世帯、子育て世代など、個々のライフステージに合わせた生活課題を相談される方が増えている。今後、さまざまな支援策が終了した際の課題や、地域で生活するなかで起こってくる課題に応じられるよう、開かれた窓口として周知を続けることが必要と考えている。

平成26年3月31日現在で、市内避難者数は78世帯149名。多くが都営「上砂町一丁目アパート」(通称：大山団地)に避難している。内訳は、大山団地51世帯103名。その他の市営住宅や個人宅に避難している方が27世帯46名。

最も避難者の多い市内都営団地自治会(大山団地)を中心に組織されている、「立川・東日本大震災避難者を支援する会」には、社協から対応業務を委託しサロン等をおこなっている。

また、市からは個人情報審査会を経て、避難者の情報提供を受け市内の避難者の状況把握を行っている。

(7)平成25年台風26号、27号に伴う大島町の被災に対する職員派遣

東京都社会福祉協議会の派遣要請を受け、大島町災害ボランティアセンターの運営支援者として、職員派遣を行った。

期間	職員名	派遣場所等
10/27(日)～11/1(金)	田中亮彦	大島町災害ボランティアセンター
12/2(月)～12/7(土)	枝村珠衣	大島町災害ボランティアセンター

4. 市民活動支援

(1)ボランティア情報提供希望者および登録団体との連携

■ボランティア情報希望者

ボランティア情報提供希望者には、個別に対応し、希望に合わせて具体的な情報を引き出し、活動につなげるように努めている。

■登録団体

主に立川を拠点として活動しているNPO法人やボランティアグループなど公益性のある開かれた活動を行う非営利の市民活動団体を対象にした登録制度を設け、情報交換を密にすることで連携を深めた。市民活動団体の活きた情報を広く市民に公開するため、ホームページ「市民活動WEBたち

かわ」の運営や「市民活動センター★たちかわ通信」を発行した。また、助成金の情報提供、機材の貸出し、市民活動団体マネジメント講座の開催など、市民活動団体それぞれの活動がより充実するための連携を図っている。

○登録団体 169 グループ

- ・障害のある人や高齢者、医療に関するグループ 51 グループ
- ・こどもや子育てに関するグループ 31 グループ
- ・環境に関するグループ 10 グループ
- ・文化・スポーツに関するグループ 31 グループ
- ・多文化共生に関するグループ 3 グループ
- ・地域づくり・まちづくりに関するグループ 36 グループ
- ・いろいろな相談事業に関するグループ 7 グループ

(2)おもしろボランティア大学の開催

多様な市民活動を行なう団体を講師に迎えたり、地域イベントのスタッフとして参加したりして、市民活動に触れるきっかけをつくるとともに、ボランティア活動のきっかけづくりや登録団体の活動紹介、その場に集まった参加者の学びあいの機会をつくった。

○第34回おもしろボランティア大学

開催日 平成25年9月22日(火)

会場 総合福祉センター

参加者 9名

テーマ 「総福見学！ボランティアの事は市活へ」

講師 市民活動センターたちかわ運営委員、市民活動センターたちかわスタッフ

(3)ボランティア体験プログラムの実施

■夏！体験ボランティア 2013

市民のボランティア活動のきっかけづくりを目的として、夏休み期間を中心に市内の福祉施設や市民活動団体と連携をとりながら実施した。

福祉分野以外の団体からも体験プログラムの提供を得ており、充実している。

参加者の傾向として、高校生の参加者が全体の半数以上を占めている。また、市外在住者が半数近くを占めており、近隣の学生層は市民活動センターたちかわのホームページから情報を得ている。小中学生向けにも PR しているが、小学生のプログラムが少ないため、今後、受け入れ施設と検討していく。

○開催時期 7月～8月を中心とした夏期

○活動メニュー 市内の受入れ施設・団体等 56団体 65プログラム

○参加者 138名

■楽市案内人ボランティア

「秋の楽市2012」より、おもしろボランティア大学から独立させた。秋の楽市からは、これまで

の会場案内のプログラムに、新たなプログラムとして障害のある方の買い物等の付き添いを加えた。今後も継続して実施予定。

○春の楽市案内人ボランティア2013

開催日 平成25年4月21日(日)

会場 春の楽市2013

参加者 12名

テーマ 「楽市を107倍楽しむ楽市案内人ボランティア」

講師 市民活動センターたちかわ運営委員、市民活動センターたちかわスタッフ

○秋の楽市案内人ボランティア 2013

開催日 平成 25 年 11 月 3 日 (日)

会場 秋の楽市 2013

参加者 8名

テーマ 「楽市を 109 倍楽しむ楽市案内人ボランティア」

講師 市民活動センターたちかわ運営委員、市民活動センターたちかわスタッフ

(4)市民活動情報の受発信機能強化

■ボランティア・市民活動情報コーナーの設置

総合福祉センター2階に、自由に情報や書籍を閲覧したり、チラシなどを入手できるボランティア・市民活動情報コーナーを設置している。また、情報検索ができるコーナー「フリースポット」も運営し、市民が気軽に情報を入手できるようにしている。活動分野・内容・形態ともに多様な団体が情報を寄せてくださるようになっている。

豊富な情報収集と同時に、必要としている情報を絞り込んだり、新たな情報を引き出したりすることもセンターの役割である。

○情報数 約 1,500 (まちづくり/保健・医療・福祉/多文化共生・海外支援/生涯学習/子ども/環境・動物保護/災害援護活動/文化・芸術・スポーツ/人権/NPO/ボランティア募集/職員募集/資格取得/組織マネジメント/ファシリテーションなどのテーマに関する情報)

■市民活動センターホームページ「市民活動 WEB たちかわ」の運営

インターネット上にてボランティアの募集情報や市民活動団体のイベント情報などを配信。登録した市民活動団体については、団体自身のパソコンで情報配信できる機能を活用できるようにしている。

団体からの情報発信が増加すると同時に、ホームページの閲覧をきっかけにセンターへの問い合わせや、活動への参加につながる事等が年々増加している。

■市民活動センター情報紙「市民活動センター★たちかわ通信」

ボランティアやNPOに関する取材記事、情報を毎月1回、情報紙として発行した。

市民が自由に手にできるよう、図書館、学習館などに設置すると同時に、市内協力店にも設置し

ているほか、関係機関、市民活動団体などには直接送付している。本年から協働推進課を通じ、砂川地区に新しく出来た「みの～れ立川」にも設置をお願いした。また、読売新聞立川北部サービスセンターの協力により、栄町、高松町、曙町の一部においては新聞折り込みにより配布している。富士見町地区の自治会に関しては、自治会ごとに回覧していただいている。

年5回（5月、7月、10月、12月、2月）は、立川市社会福祉協議会の機関紙である「あいあい通信」内に情報を掲載して市内全戸配布している。団体からは、開催する講座やボランティア募集のお問い合わせをいただいたという声が寄せられた。

平成23年度より、立川市内の小中学校に年3回「市民活動センター★たちかわ通信学校便」を発行し、総合学習や夏！体験ボランティア、ふれあいミュージックフェスティバルなど、社会福祉協議会の活動を紹介した。

- ・市民活動センター★たちかわ通信 6,100部×7回 計 42,700部
- ・市民活動センター★たちかわ通信学校便 13,000部×3回 計 39,000部
- ・あいあい通信に情報掲載 76,000部×5回 計 380,000部

■市民活動団体リスト

市民活動センターたちかわ登録団体の紹介冊子「市民活動センターたちかわ登録グループ紹介BOOK」を2年更新で発行している。

- 「市民活動センターたちかわ登録グループ紹介BOOK」 掲載団体 171団体

(5)市民活動向け講座・研修会等の開催

■NPO 法人設立ガイダンス

NPO法の解説・法人化の意義・設立に向けた手順や事務についての内容で、年3回、平日夜間に開催。参加団体の活動分野は多岐にわたる。「NPOとは何か」を入りに多様なグループ運営の相談・質問が持ちかけられる場となっている。

ガイダンスだけでは「日程が合わない」「個別に解説してほしい」という声も多く、適宜、窓口でも相談を受け付けている。

参加者延べ人数 50名

多い質問 「NPO法人と他法人の違いについて」「役員・社員について」

	開催日時	参加者数	参加者の活動分野
①	平成25年7月25日(木)	10名	障害者団体、スポーツ団体、市民サークル団体
②	平成25年11月20日(水)	11名	市民活動団体、行政
③	平成26年2月19日(水)	29名	子育て、聴覚障害、行政、企業

■NPO 法人・非営利団体のための運営実務あれこれ講座

柔軟で特徴ある市民事業を起こすNPO法人や非営利団体が増加している一方、運営実務能力については悩みを抱えている団体が多い。本センターで行っているNPOガイダンスや運営相談利用者からも、会計・税務・労務・定款のつくり方などに関する専門講座開催を望む声が多いため、運営基盤づくりの支援策のひとつとして開催している。

- 開催日 ①平成 25 年 2 月 19 日(水) ②2 月 26 日(水) ③3 月 8 日(土) ④3 月 12 日(水)
- 会場 総合福祉センター 視聴覚室
- 内容 ①NPO 法人設立ガイダンス 講師：市民活動センターたちかわスタッフ
 ②定款のつくり方 講師：森 玲子氏
 (東京ボランティア・市民活動センタースタッフ)
 ③NPO 法人と会計・税務 講師：内藤純氏(公認会計士・税理士)
 ④NPO 法人と労務 講師：井嶋栄治氏(社会保険労務士)
- 参加者 ①29 名 ②12 名 ③16 名 ④12 名

■ボランティア保険・行事保険の説明会

ボランティアをしたい人やボランティア受入れを行っている福祉施設・市民団体向けにボランティア保険・行事保険の説明会を行った。

- 開催日 平成 25 年 4 月 17 日(水)
- 会場 立川市総合福祉センター
- 講師 三井住友海上火災保険株式会社の職員
- 内容 ボランティア保険、行事保険の説明
- 参加者 14 名

(6)市民活動団体成事業の実施

市民活動団体の立ち上げ資金や事業費について、運営委員による審査会にて、助成の可否を決定した。

- ファーストステップ助成 4 団体 199,400 円
- 事業継続支援助成 12 団体 600,000 円

No.	団体名	申請区分	申請内容
1	LFG かるがも愛の家族立川	市民交流事業	第二回東京・多摩・立川アディクションセミナー
2	社会教育団体 MOI	市民交流事業	音楽療法による地域交流 ミュージック★ハート IN 立川
3	福島と立川の子どもたちの会	社会福祉に関する普及活動	立川市民の交流と被災地住民のストレスを軽減する活動
4	子育て交流ひろば立川おもちゃ図書館ぱれっと	市民交流事業	おもちゃ図書館活動を兼ねた子育てひろばの新設
5	NPO 法人 立川子ども劇場	市民交流事業	乳幼児サークル「しゃぼんだま」
6	立川市肢体不自由児・者 父母の会 たつのこ	市民交流事業	親子で楽しむ臨床美術

7	NPO 法人 バイオマス産業機構	社会福祉に関する普及活動	陶芸・陶板教室
8	一般社団法人 市民の学習・活動・交流センター シビル	市民交流事業	シビル市民講座 第17期「現代の貧困を問う～生活保護と働くこと」
9	三多摩市民後見を考える会	社会福祉に関する普及活動	成年後見制度の啓蒙及び普及活動
10	中途失聴・難聴者「つばさの会」立川	市民交流事業	難聴者とそれらを支援したい一般市民のためのパソコン学習室
11	チャイルドラインたちかわ	社会福祉に関する普及活動	チャイルドラインの受け手養成講座
12	市民のひろば・憲法の会	市民交流事業	第27回 憲法集会「沖縄からヤマトを問う」
13	市民活動資料・情報センターをつくる会	市民交流事業	市民活動資料センター基金発足3周年集会
14	和太鼓「趣」	市民交流事業	立川太鼓祭 in 国営昭和記念公園
15	立川市手をつなぐ親の会	社会福祉に関する普及活動	立川市手をつなぐ親の会 新パンフレット作成
16	NPO 法人 市民活動サポートセンター・アンティ多摩	市民交流事業	アンティ多摩10年記念冊子「市民活動ってなんだろう-改めて考える役割と課題(仮)」の発行

■民間助成の周知

民間団体の助成情報を、市民活動センターのホームページや広報紙に掲載するほか、各団体に個別に送付し、市民活動団体やボランティアグループに周知した。また助成に推薦が必要な場合は、地域福祉の推進につながる活動であるかを精査し、推薦を行った。

(7)事務機器等の貸出機材の整備

■機材の貸出し

市民活動支援の為、機材の貸し出しを行った。印刷機、拡大印刷機の利用件数は昨年度とほぼ同数であった。

<利用実績>

	印刷機		拡大印刷機	
	件数	金額	件数	金額
4月	51件	18,000円	20件	11,840円
5月	40件	15,800円	14件	6,850円
6月	29件	7,900円	10件	5,260円
7月	34件	9,900円	3件	2,250円

8月	21件	10,470円	7件	7,260円
9月	37件	15,600円	7件	9,740円
10月	36件	14,250円	24件	24,165円
11月	40件	9,300円	11件	6,270円
12月	21件	7,500円	5件	3,320円
1月	25件	6,900円	6件	3,800円
2月	37件	12,800円	4件	1,050円
3月	30件	10,700円	13件	8,600円
合計	401件	139,120円	124件	90,405円

・パソコン・図書・車椅子の貸出し

＜利用実績＞

	パソコン	図 書		車椅子の貸出し	
4月	13件	2件	2冊	1件	2台
5月	13件	2件	4冊	1件	16台
6月	13件	1件	1冊	4件	30台
7月	13件	4件	6冊	4件	13台
8月	15件	4件	6冊	2件	3台
9月	12件	3件	7冊	5件	41台
10月	17件	2件	3冊	6件	54台
11月	14件	1件	1冊	3件	17台
12月	15件	1件	1冊	0件	0台
1月	23件	2件	4冊	0件	0台
2月	11件	3件	7冊	2件	58台
3月	10件	0件	0冊	3件	41台
合計	169件	25件	42冊	31件	275台

・各種備品の貸出

＜利用実績＞

備 品 名	団 体 数	貸し出し数
ア イ マ ス ク	8件	延べ204枚
マ イ ク ス タ ン ド	12件	述べ24台
白杖	3件	延べ17本
DVDプレイヤー	14件	延べ14台
P A (音 響 装 置)	21件	延べ21台
テ ン ト	4件	延べ4張
パ ネ ル	2件	述べ15枚

■ボランティアルームの管理運営

ボランティア活動の拠点として、市内2ヶ所のボランティアルームの管理運営を行った。

- ・しばぎボランティアルーム（シルバー人材センター内／立川市柴崎町 1-17-7）
- ・ふじみボランティアルーム（立川市総合福祉センター2階／立川市富士見町 2-36-47）

<利用実績>

	しばぎボランティアルーム	ふじみボランティアルーム
4月	12 団体	34 団体
5月	7 団体	33 団体
6月	8 団体	28 団体
7月	7 団体	34 団体
8月	9 団体	28 団体
9月	12 団体	35 団体
10月	12 団体	34 団体
11月	8 団体	35 団体
12月	5 団体	22 団体
1月	4 団体	21 団体
2月	8 団体	32 団体
3月	8 団体	34 団体
合計	100 団体	370 団体

(8)ボランティア保険の加入受付

ボランティア活動を行う方が安心して活動できるよう、ボランティア保険および行事保険の相談、加入の受付をした。

<利用実績>

ボランティア保険	3,276 名
ボランティア活動等行事用保険	185 件 6,333 名

5. その他

(1)視察研修・取材の受入れ

他地区のボランティアセンターや運営委員会の視察研修やヒアリングを受け入れた。

- ・JCN マイテレビ
- ・エフエムたちかわ
- ・都内社協（BCP研修）
- ・宇都宮市社会福祉協議会
- ・公明党神戸市市議会議員
- ・ユニバーサルボランティアグループ

- ・雑誌「地域福祉研究」
- ・東京都社会福祉協議会地域福祉コーディネーター実地研修
- ・首都大学東京学生

(2)実習生の受入れ協力

国家資格である社会福祉士の取得を目指す実習生を積極的に受入れ、人材育成に寄与した。

○日本社会事業大学	2名	○東洋大学	1名
○武蔵野大学	1名	○立教大学	1名
○明星大学	1名	○白梅学園大学	1名
○法政大学	1名		

合 計 8名 (3～5日間)

Ⅳ. 平成 25 年度の市民活動センター事業を振り返って

人口の減少や少子高齢化の進展、家族や地域の支え合い機能の低下などが続く社会状況下、数年来の日本経済の低迷にも回復の兆しのニュースが聞かれる年となった。平成 25（2013）年度は、貧困の連鎖を防止する観点から生活困窮者に対する包括的な相談支援や多様な就労支援、生活支援などを行う必要が検討されるべき課題として取り上げられる 1 年となった。

このような中、立川市社会福祉協議会では、地域福祉市民活動計画「第 3 次立川あいあいプラン 21」に掲げた、①住民が力を発揮し協働できるまち、②互いを尊重しともに生きるまち、③孤立なく支えあえるまち、④誰もが必要なサービスを利用できるまちを実現できるよう、年度計画を着実に実施し、3 地区目にあたる地域福祉コーディネーター増配置を実現してきた。また、平成 27 年度からの地域福祉市民活動計画第 4 次「立川あいあいプラン 21」策定に向けた策定委員会を開催し、地域懇談会による住民の声を集め、地域福祉コーディネーターの全地区配置の実現に向けて着実に歩を進めた 1 年となった。

一方、東日本大震災の発生から 3 年余りが経過する中、立川市や関係機関と協働して立川市内で避難生活を送られている方々の孤立防止などの取組みも継続し、改めて、この震災により尊い生命を失われた皆さまに哀悼の意を表するとともに、一日も早い被災地の復興と被災された皆さまの生活再建をサポートしつつ、震災から得た教訓を風化させてしまうことなく、地域の防災減災の取組みに活かすことを確認する 1 年でもあった。

1. 平成 25 年度立川市社会福祉協議会 重点推進事項の推進

立川市社会福祉協議会は、平成 25 年度の重点推進事項として、①「第 4 次立川あいあいプラン 21」の策定、②地域福祉コーディネーターの増配置による住民福祉活動の推進、③障害者相談支援事業所の運営などによる市民の権利擁護の推進、④関係機関との連携による地域包括ケアの推進、の 4 点を掲げ事業を進めてきた。

中でも、市民活動センターたちかわは、②地域福祉コーディネーターの増配置による住民福祉活動の推進に努めた。以下、平成 25 年度事業を振り返りたい。

(1) 住民のつながりづくりの促進(地域福祉コーディネーターの配置)

「立川あいあいプラン 21」に位置づけられた地域福祉コーディネーターは、これまでに市内 2 地区に配置されてきた。栄町・若葉町（＝第 4 地区民協エリア）は、わかば地域包括支援センターを拠点として活動を展開。上砂町・一番町・西砂町（＝第 6 地区民協エリア）の地域福祉コーディネーターも、かみすな地域包括支援センターを拠点として活動してきた。

これら第 4 地区（栄町・若葉町）、第 6 地区（上砂町・一番町・西砂町）に続き、平成 25 年 4 月から錦町・羽衣町（第 2 地区民協エリア）に地域福祉コーディネーターを増配置し、地域住民の助け合い、支えあい活動などの推進に努めた。3 名体制となって、より相談件数や連絡・調整回数も増加し、地域福祉コーディネーターの地域における存在認知度はさらに高まってきているといえる。

平成 25 年度は、増配置を実現することが出来た。次年度以降の第 4 次計画策定のための「地域懇談会」を 3 つのまちで全 6 回を開催したが、市民の幅広い声を軸として、すべての地区へのコーデ

ィネーター配置を目指していきたいと考えている。

(2) 震災対策の強化

東日本大震災より3年が経過したが、地域においては災害対策への関心は未だ大いに高いと考えられる。しかし震災直後の混乱や教訓が次第に薄まってしまう前に、この機を逃さぬよう、市民活動センターは、関係機関・団体と協働して様々な震災対策を行ってきた。

福島県相馬市災害ボランティアセンターの運営支援に市民活動センターの職員を派遣した経験、また宮城県石巻市への職員派遣等の実績を生かし、災害ボランティアセンター設置・運営マニュアルの見直し検証に努め、それに基づいて立川市総合防災訓練での、災害ボランティアセンターの啓発や、「立川市駅前滞留者対策推進協議会への参画」や「次期地域防災計画策定市民会議などへの参画」等を行った。

また、関係団体と協働で、第Ⅱ期となる『災害ボランティアリーダー養成講座』を開講し、災害時の人材養成を図ったほか、災害時に関係機関と連携するための、『災害対策ネットワーク会議』を開催し、立川での発災に備える災害対策を進めた。

25年度はこれらに加えて、立川市社会福祉協議会全体としての事業継続計画（BCP計画）を策定するため、特に発災直後～72時間以内に災害ボランティアセンターを立ち上げるためのシミュレーション訓練を、東京都社会福祉協議会の協力により都内他市区社協職員への公開型で行い、内部でも様々な意見交換を行った。

2. 平成25年度を総括して

上記のほか、運営委員会によるセンター運営や、「協働の推進」「地域づくり」「市民活動支援」のキーワードに基づいた事業を総括したい。

(1) 運営委員会によるセンター運営

運営委員会では、平成25年6月に2年任期の委員改選を行い、新たな委員20名でのスタートを切っている。これを機に、これまで運営委員会の下に置かれてきた3つの専門委員会を再編し、新たな視点で機能する3つの専門部会を配置して、センター運営を進めてきた。

【4月～6月までの専門委員会：①～③】

- ①事業推進委員会 ボランティア入門講座「おもしろボランティア大学」を、ボランティア活動の裾野を広げるべく進めてきた。また、春の楽市、秋の楽市における案内人ボランティアの企画
- ②団体支援委員会 団体登録制度などを見直すべく検討を行った。現在の団体登録制度や支えあいサロンなどの制度の課題を明らかにし、時代にあった制度となるよう見直しを図った。
- ③課題解決実行委員会 市民活動センターたちかわ開設から10年を経て、この間の相談内容を分析。これから先の10年を見据えた、市民活動センターたちかわのあるべき姿を探求した。

【6月以降の専門部会：④～⑥】

- ④協働支援センター部会 社会貢献や地域活動等に参加したい人の為に、一步踏み出せない人のきっかけや出会いの場づくりを検討しました。また、事業推進委員会から引き継いで、ボランティア活動への参加のきっかけとなる企画と評価に努めた。

1)おもしろボランティア大学の企画、評価

2) 楽市案内人ボランティアの企画、評価

⑤地域活動支援センター部会 部会の方向性として、「今、取り組むべき地域福祉課題を選定し、その啓発や課題解決のための講座を企画、実施する」ことと定めた。また、錦町で開催した地域懇談会で話された課題や、地域福祉コーディネーター新配置地区での取り組み課題等を検討した。

1) 地域課題について

2) 地域福祉コーディネーター地区課題

⑥ボランティアセンター部会 部会の方向性を、「市民活動センターとしての理念や捉えるべき社会問題を整理・検討した企画・仕組み作りに取り組む」と定めた。また、部会を中心とした委員により、市民活動センター助成の審査会を形成した。

1) 生活困窮者、地域包括ケアの学び

2) ヒューマンライブラリーについて

3) 平成 25 年度市民活動センターたちかわ助成金報告、助成審査会の振り返り

4) 団体登録制度について

(2) 協働の推進

立川市文化芸術のまちづくり協議会や、スポーツ祭東京 2013 立川市実行委員会への参画、市民と行政との協働による運営を進めるための立川市地域学習館運営協議会への参画、自治会連合会支部単位での小学校を拠点とした地域防災訓練などへ参画してきた。立川市人権学習事業実行委員会への参画では、今年から新たに小学校 P T A からの委員が加わり、障害者週間の実行委員会と合同での映画上映を実施するなど、新たなつながりが出来た。また、同じく地域づくりを推進していく地域包括支援センターとの協働にも力を入れ、各地区での小地域ケア会議への参加・協力など、協働を進めてきた。

特に今年度は、NPO 法人設立相談を連携させて地域での創業を活性化するため、これまで行政、地域経済団体、金融機関などが取り組む創業支援事業の周知・啓発を図る連絡会に出席してきていたが、これをベースにした創業支援事業に関する五者協定を締結するに至った。

(3) 地域づくり

地域福祉コーディネーターの活動を重点的に推進して、地域福祉の推進に大きく貢献した。コーディネーター配置地区以外でも地域懇談会の開催を進め、幸町ではこの地域の懇談会メンバーが核となって「次期あいあいプラン策定のための地域懇談会」開催に至った。

また、地域での助け合いグループなどの組織化支援を行って、孤立の防止につながる小地域活動を推進した。特に支えあいサロングループは増加傾向を続けている。

(4) 市民活動支援

「市民活動支援」については、地域福祉コーディネーターとセンター職員が連携してボランティア活動や NPO 活動など、多様な相談に対する的確な対応を行ったほか、助成事業、情報の受発信、OA 機器の貸し出しなどを行ってきた。

情報発信の強化として開始した、市民活動センター★たちかわ通信学校版を市内小中学校に通う、全児童・生徒に継続して配布した。地域との関わりが深く、将来の地域の担い手と期待される小中学生やその親世代に、社会福祉協議会の取組みを伝えることを目的として発行した。また、市内の一部自治会には回覧を依頼し、さらなる広報の強化を図った。

V. 平成 26 年度に向けて

平成 26 年度は、平成 27 年度からの「第 4 次立川あいあいプラン 21」策定に向けて、次の活動を重点的に取り組んでいく。

○地域福祉コーディネーターによる住民福祉活動のさらなる推進

増配置が実現した第 2 地区（錦町、羽衣町）、担当者交代のあった第 4 地区（栄町・若葉町）、そして第 6 地区（上砂町・一番町・西砂町）の地域福祉コーディネーターと、市民活動センターの地区担当者との連携を深め、ご近所で茶話会やおしゃべりが出来る居場所づくりや災害時にご近所同士が助け合えるためのしくみづくりなど、住民の生活課題に取り組んでいきたい。

○地域住民の孤立の防止

市内で連続発生した痛ましい孤立死事件を防ぐため、住民の誰もが孤立しない生活を送れるように、地域の「縁側」や「井戸端」といったたまり場、交流の場としての「支えあいサロン」活動を推進する。また、住民相互の助け合い活動などの支援を通し、誰も孤立することのないまちづくりに取り組んでいきたい。

○防災・減災対策の強化

関係団体と協働した災害ボランティアリーダー養成講座の開催、事業継続計画（BCP）と連動した「災害ボランティアセンター」立ち上げの実践的訓練の実施、防災懇談会の開催を行うほか、災害時の関係機関との連携を深めるための災害対策ネットワーク会議の開催など、発災時の備えを強化するとともに、これらの対策を通じて、互いに日頃から顔の見える関係づくりを地域に実現していきたい。

○各種委員会・協議会などへ参画しての新たなネットワークづくり

センターへの期待値の高まりと共に、各種委員会や協議会などの参画依頼は増えている。ネットワークづくりの機会として積極的に参画していく。

・地域学習館運営協議会、立川市子ども支援ネットワーク、高齢者虐待防止ネットワーク、立川市人権学習事業実行委員会、立川市地域公共交通会議、地域ケア会議など

以上、主な重点事業を掲げたが、運営委員会によるセンター運営を土台として、「協働の推進」「地域づくり」「市民活動支援」のキーワードに基づいた事業を着実に進めていきたい。

VI. 市民活動センターたちかわ平成 25 年度収支決算(概略)

(単位円)

科 目	予 算(A)	決 算(B)	差 異(A-B)	備考
会 費 収 入	3,461,000	3,525,100	△64,100	
寄 付 金 収 入	1,316,000	1,316,000	0	
経常経費補助金収入	21,338,000	21,337,000	1,000	
立川市受託金収入	13,000,000	13,000,000	0	
事 業 収 入	484,000	340,425	143,575	
共同募金配分金収入	1,580,000	1,580,000	0	
雑 収 入	1,022,000	1,158,782	△136,782	
経理区分間繰入金収入	450,000	665,000	△215,000	
経常活動資金収入計	42,651,000	42,922,307	△271,307	(1)
人 件 費 支 出	35,611,000	35,221,815	389,185	
事 務 費 支 出	4,669,000	3,146,204	1,522,796	
事 業 費 支 出	5,664,000	4,661,931	1,012,069	
共同募金配分金支出	1,760,000	1,580,000	180,000	
助 成 金 支 出	1,640,000	1,379,400	260,600	
経常活動資金支出	49,354,000	45,989,350	3,364,650	(2)
経常活動資金収支差額	▲6,703,000	▲3,067,043	△3,635,957	(3) = (1) - (2)
前期末支払資金残高	6,703,000	10,719,104	△4,016,104	(4) 前年度繰越金
当期末支払資金残高	0	7,652,061	△7,652,061	(5) = (3) + (4) 翌年度繰越金

1. 『差異』について：「収入」、「収支差額」、「資金残高」における△（マイナス）は予算額より決算額の方が金額が上回ったことを表している。

2. 収入について：

* 事業収入は、NPO ガイダンス、貸出し機材利用料等。雑収入は、夏！体験ボランティアの参加費、実習生の受入謝礼等。

3. 支出について：

* 人件費支出は、正職員 5 名、事務職員 3 名分。

* 事務費の主な支出は、運営委員旅費、市民活動センターたちかわ通信の郵送代等

* 事業費の主な支出は、NPO 実務講座の講師謝礼や機材リース料等

* 共同募金配分金支出は、市民活動センターたちかわ通信作成費等

* 助成金支出は、市民活動センターたちかわ助成事業、支えあいサロン助成金等

3章 資料

I. 平成 25 年度登録団体 (掲載 169 団体)

各団体の詳細は、市民活動センターたちかわのホームページをご覧ください。

URL: <http://www.tachikawa-shakyo.jp/skct/>

※大きく種類別のグループごとで表にし、表中では登録順に掲載。

○障害のある人や高齢者、医療に関するグループ (51 団体)

団体名	活動内容
特定非営利活動法人 たすけあいワーカーズ パステル	高齢の方、障害のある方、子育て中の方対象の生活援助
アラノンジャパン	お酒の問題に影響を受けた家族や友人のグループ
いろとりどり	摂食障害の回復を望む女性を支援する活動
いろりん	障害のある方の就労支援
LFGかるがも愛の家族立川	人間関係に適応していく能力の回復を目指すグループ
音声ガイドを楽しむ会 (バリアフリー映画会)	障害者・高齢者のための音声ガイド付きの映画上映会
ガイドヘルプサービスあい	障害のある方のための移動支援・送迎
片麻痺ネットワーク	パソコン教室の実施
花音	障害当事者によるリサイクルショップ経営
聞き書きボランティア・多摩	高齢者の話を聞き、記録し小冊子にして贈る活動
特定非営利活動法人 きずなの会 東京	高齢者や障害のある方への生涯支援
ぐる〜ぷあゆみ	障害のある子どもたちのために布の絵本や遊具の製作
クローバーの会	聴覚障害のある方の理解と手話技術の向上
特定非営利活動法人 ケア・センターやわらぎ	高齢者・障害者への介護保険サービスや自立支援サービス事業等
特定非営利活動法人 こぶしの会	知的障害のある方が働く場
特定非営利活動法人 こらそん	障害のある方と障害のある子ども対象の余暇支援活動
在宅ホスピスケア・ ボランティアさくら	ホスピスケアを受けている患者やその家族のサポート
三多摩市民後見を考える会	成年後見制度の学習と啓蒙・普及活動
特定非営利活動法人 しらゆり	知的障害のある方が働く場
特定非営利活動法人 自立生活センター・立川	障害のある方が自分らしく生活するためのピア支援活動
特定非営利活動法人 SPORTS・ACT LaLaLa 柏	知的障害のある方が働く場

ダウン症児の家族の会 「たっちの会」	ダウン症児の家族同士による情報交換や悩み相談
立川市視覚障害者福祉協会	視覚障害のある方自身による社会参加推進活動
立川市肢体不自由児・者 父母の会 たつのこ	肢体不自由児とその親のための交流活動
特定非営利活動法人 立川市障害者後援会	身体・知的・精神障害のある方への支援と理解を広める活動
立川市聴覚障害者協会	聴覚障害のある方同士の親睦や、障害理解を広めるための活動
立川失語症さくら会	脳卒中や交通事故の後遺症者の回復支援活動
立川市手をつなぐ親の会	市内在住の知的障害児・者の福祉増進と援助活動
立川手話こぶしの会	ろう者との交流や手話技術の向上、ろう者の問題を共に考える
立川手話友の会	日本手話とろう文化をろう者から学び理解を深める
立川市朗読サークル「こえ」	視覚障害のある方のために録音テープや CD を製作
立川精神障害者家族会 (通称:立川麦の会)	精神障害のある方が安心して住み続けられるまちづくり活動
立川点字サークル	視覚障害のある方のための点訳活動
立川福祉作業所	知的障害のある方が働く場
特定非営利活動法人 立川マック	アルコール依存症回復のためのプログラム活動
特定非営利活動法人たんと の会 立川けやき福祉作業所	知的障害のある方が働く場
特定非営利活動法人 たんぼぼ	障害のある方が働く軽食・喫茶店
特定非営利活動法人 テイクオフ	知的障害のある方の余暇活動の場
特定非営利活動法人 地域福祉サービス協会	高齢者・障害者が地域で暮らすための助け合い活動
中途失聴・難聴者 「つばさの会」立川	高齢者や聴覚障害のある方同士の交流の場
東京立川断酒新生会	仲間と共に酒害からの回復を目指すグループ
(独)国立病院機構 災害医療セ ンター ボランティアの会	外来患者の受付・案内サポート
ボランティアグループ“木苺”	柏地域サービスセンター(高齢者デイ)でのボランティア活動
ユニバーサルボランティア東京	高齢者による高齢者のための話し相手活動
ラッキークローバー	知的障害児を持つ家族として余暇活動や勉強会を開催
音訳*おと	視覚障害のある方のために朝日新聞の記事を読んでいるグループ
特定非営利活動法人 いもっこの会	障害者の福祉作業所
特定非営利活動法人 柿の木ネット	精神障害のある方のための就労継続支援事業所
特定非営利活動法人 介護派遣事業 みんなの広場	障害がある方の支援活動を行っている

特定非営利活動法人 I'LL	主に精神障害者の方の働く場の提供や就労を支援
遊木会	工芸品を制作し、障害がある方の自立を促すサポート

○子どもや子育てに関するグループ（31 団体）

団体名	活動内容
With ママ	東日本大震災の子育て支援のためのフリーマーケット
エル・ソレイユ 「やさしい時間プロジェクト」	「優しい時間」シリーズの企画展開
おはなしたまご	読み聞かせのグループ
親子で学ぶサークル 『ハーモニー』	講師を交えた英語、体操、リトミック等の活動
学校ボランティアサークル 学ボラの会	富士見町を中心とした学校支援ボランティア
特定非営利活動法人 教育支援協会【多摩っ子クラブ】	小学生を対象としたアフタースクールの運営
ぐる～ぶ遊楽子	子ども向けのお話会の開催や布絵本作成
子育て・いれかわりたちかわり	子育てサークルや支援団体のネットワーク活動
子育て支援ボランティア ミニトマの木	子育て支援、見守り保育ボランティア
市民型ソーシャルワーカー ほっとほっとたちかわ	傾聴を中心にした子どもと家庭のための訪問支援活動
特定非営利活動法人 市民共同学習プロジェクト 子どもひろば	子どもが自分を守る力をつけるための出前講座や不登校児支援
社会教育団体 MOI	音楽療法を通じた子育て、自主教育、仲間づくりの活動
すくすくフォローグループ	小さく生まれた子と親への支援活動
スマイル	若葉町での親子グループ活動
立川家庭教育を考える親の会	子どもの自立を目指した家庭教育の親の勉強会
特定非営利活動法人 立川子ども劇場	子どもたちに演劇・音楽・芸術・遊び等の文化的体験を提供
立川マザーズ	ひとり親家庭の母子・父子等の交流親睦活動
たまがわ・みらいパーク 企画運営委員会	子どもを中心とした遊び場・学び場の運営
特定非営利活動法人 東京賢治の学校	シュタイナー教育をベースにした自主学校
和みアカデミー	幼児から高齢者を対象に自由な学びの場を提供
社会福祉法人 西立川児童会館	18歳までの子どもを対象にした自由な遊び場活動
はぐはぐ	子育て中の親が語り合い、子どもたちが安心して遊べる居場所活動
パドマ	子ども連れで参加可能なヨガサークル

ボーイスカウト立川第7団	子ども達の健全な成長のために指導者のもとにスカウト活動
Body and Soul	思春期の子どもたちの体と心について必要な情報を届ける活動
ママの杜	母親のための情報交換、講座開催
夢たち応援団	「夢たち 子ども21プラン」の推進、バックアップ
子育て交流ひろば 立川おもちゃ図書館ぱれっと	障害のある子どもない子ども利用できるおもちゃ図書館、交流ひろば
福島と立川の子どもたちの会	福島の子どもたちを対象に被災地支援を行うグループ
福島の子どもの幸せを願う会	福島の子どもたちを支援するために募金活動等を行うグループ
非営利団体「Sawaka Lab」	育児を抱え込まず、周りのママや地域と共に育児をする環境作り

○環境に関するグループ（10 団体）

団体名	活動内容
特定非営利活動法人『キャンプの貯金箱』推進ネットワーク	ペットボトルキャップを回収・換金し NGO へ寄附
特定非営利活動法人 集住グリーンネットワーク	緑豊かなまちづくりのための環境教育や雑木林保全活動等
砂川・鳴く虫 愛好会	「鳴く虫」など昆虫の生息区域を確保し保存していく活動。
たちかわエコパートナー	清掃活動や環境学習講座の開催
立川かんきょう市民の会	親子の自然体験学習や環境イベントの実施
立川市食器再使用推進協議会	環境に配慮した生活知識の普及啓発
玉川上水の自然保護を考える会	玉川上水の自然保護活動
特定非営利活動法人 バイオマス産業機構	CO2 削減にかかわる環境整備事業・社会教育・人材育成
特定非営利活動法人 武蔵野の里作りクラブ	昭和記念公園内で武蔵野の農村風景再現と体験活動
特定非営利活動法人 グリーンサンクチュアリ悠	樹林の保全活動

○文化・スポーツに関するグループ（31 団体）

団体名	活動内容
石田倉庫の住人	アート・クラフトの体験教室や地域イベント開催
歌扇会	福祉施設等で歌や踊りのプログラム提供
エムズスタイル	アルファ波音楽に合わせ、バンドを使っのエクササイズ
特定非営利活動法人 円十字協力	気功教室を通じて、アジアの学生を支援
キネマたちかわ	優れた映画の自主上映サークル

キューティー・コア	誰もが参加できるエクササイズ活動
シネマ 16	定例映画会・映写機学習会
シャンティ	女性の身体を考えたヨガサークル
特定非営利活動法人 SPORTS・ACT	地域スポーツの環境整備と障害者の地域支援事業
すみれ寮ぼれぼれコンサート	障害の有無を問わず楽しめるコンサートの企画実施
創作和太鼓集団 絆-Kizuna-	高校生会員による和太鼓の講習会、交流会、演奏活動
そば打ち友の会	そば打ち技術の習得と福祉施設などでのそば打ち体験
立川親と子のよい映画をみる会	良質な映画の定例上映会
立川市テニス向上委員会	テニスのマナーや技術の無料レッスン提供
立川市ラジオ体操協会	ラジオ体操を通じた健康で明るい地域社会づくり
立川まちおん	ストリートミュージシャンを主としたライブ、コンサートの実施
多摩 fun アート	重度障害者の臨床美術に関する創造活動
多摩ミュージック 21	子ども、障害者、高齢者を対象に良質で安価なコンサートを開催
南京玉すだれアーティストの会	南京玉すだれの習得と普及活動
虹の音楽隊	高齢者や児童施設、地域イベントでの演奏活動
ハワイアングループ —WAIPIO PLUS—	高齢者施設や地域イベントでハワイ文化を広める活動
プルメリア・フラグループ	高齢者施設や地域イベントでハワイ文化を広める活動
文化・芸術いきいきネットワーク (通称 CAN)	高齢者施設へのアクティビティの提供と支援
本町	介護施設、幼稚園でのお囃子、演奏活動
ミュージック・トレイン	乳幼児やその家族を対象にしたコンサート活動
みんなの展示場 中村洋久絵画館	絵画や手作り作品の無料展示、観覧
八舞て会	高齢者施設や地域イベントで日本舞踊、民謡踊りを広める活動
和太鼓 趣	地域のイベントで和太鼓の演奏、交流
らくらくヨガ	ヨガ教室
日本書を選定して読みあう会	日本書の価値観を読書会を通して広める活動
中高年ミュージカルパフォーマンス スぐるーぶ 一季立川	ミニミュージカルとパフォーマンスでボランティア公演を中心に活動

○多文化共生に関するグループ（3 団体）

団体名	活動内容
立川国際友好協会	在住・在勤外国人のための日本語教室
特定非営利活動法人 たちかわ多文化共生センター	外国人のための相談受付や多文化共生イベントの実施
特定非営利活動法人 日本ネパール友好協会	日本在住ネパール人の生活支援や就労支援

○地域づくり・まちづくりに関するグループ（36 団体）

団体名	活動内容
愛犬パトロール グループの会	愛犬を伴った防犯活動や地域環境美化活動
あすなる洋裁グループ	福祉施設等の依頼に応じ衣類や小物の作成
sSLc NPO 福祉団体セフティライフ	防災、音楽、美術等のボランティアを通して、住みよい社会作りを行う
キャットニップ	地域ネコの保護・管理
グッドネイバー 西砂・一番	町内で「良き隣人」として人と人をつなぎ支える活動
ぐるーぷ「たけのこ」	使用済み切手の整理
公的施設に市民交流喫茶室をつくる会	市民交流喫茶を作る活動
特定非営利活動法人高齢社会の 食と職を考えるチャンプルーの会	コミュニティレストランや地域の居場所づくり事業
栄町地区 グッドネイバーをすすめる会	町内で「良き隣人」として人と人をつなぎ支える活動
栄町猫対策委員会	地域ネコの保護・管理
特定非営利活動法人 さんきゅうハウス	路上生活者への炊き出し、物資配布等の支援活動
しおりの会	海外の子どもたちに千代紙の作品を送る活動
柴崎町地区 グッドネイバー推進協議会	町内で「良き隣人」として人と人をつなぎ支える活動
市民活動資料・情報センターをつくる会	市民団体発行の通信やミニコミの保存・収集公開活動
市民の学習・活動・交流センター シビル	市民の学習や活動・交流を支援する活動
市民のひろば憲法の会	憲法集会や社会問題に関する学習会の開催
社会福祉法人 至誠学舎立川 ワークセンターまことくらぶ	知的障害のある方が働く場
特定非営利活動法人 立川教育振興会	教育・文化に関する講演会開催や学校支援ボランティアの推進
立川地域猫の会	飼い主のいない猫のトラブルをなくす活動
立川よいと祭り実行委員会	市民相互のふれあいと郷土意識向上を目的とした祭の実施

立川市災害ボランティアネット	関係機関と連携した防災、減災活動
東京にしがわ大学	誰もが参加できる学びの場
ハーブを楽しむ会 ローズマリー	ハーブについての学習会、料理教室
富士見町団地管理組合法人 見守りネット・結サポートセンター	富士見町団地居住者同士の見守り、支えあい活動
フリー談話室さぼう	誰もが利用できる談話室の運営
ふるさと復興支援 net.again	コンサートを通じての被災者支援活動
一般社団法人 ほっとステーション 砂川口前 さくらんぼ保育園	保育園の運営や親子教室の開催
友遊会	メンバーの特技を活かした交友活動
若葉町の福祉を考える会 グッドネイバー若葉	町内で「良き隣人」として人と人をつなぎ支える活動
若葉町ボランティアグループ	高齢になって外出が少なくなった方たちの仲間づくり
たちかわ市民みらい会議	市民による市制参画、条例策定推進、勉強会等を行うグループ
多摩生きがいつくり協議会	サラリーマンOBの地域へのソフトランディング支援が目的
にゃんにゃん	地域ネコの保護・管理
牡鹿半島を支援する会	宮城県牡鹿半島を中心に、支援物資の提供や復興支援を行う活動
ふじみCatsボランティアの会	地域ネコの保護・管理
シニアパソコン教室	「ゆっくり、優しく」をモットーに、パソコンの使い方を学びあう教室

〇いろいろな相談事業に関するグループ（7団体）

団体名	活動内容
(学習とボランティアの会) たちかわパソコン倶楽部	初心者を対象にした無料相談会や福祉施設での講座実施
特定非営利活動法人 「育て上げ」ネット	若者就労支援事業
特定非営利活動法人 市民活動 サポートセンター・アンティ多摩	市民活動団体や個人へ向けた情報誌作成や活動支援
チャイルドライン たちかわ	18歳までの子どもを対象にした電話相談活動
パソコン相談員研究会	初心者を対象にした相談・講習会の実施
特定非営利活動法人 より良い 住宅環境作りを支援する会	新規住宅購入や健康住宅を考える講座の実施等
特定非営利活動法人 ライブリー	家庭内の問題についてのカウンセリングや法務相談事業

Ⅱ. 平成 25 年度登録サロン (掲載 120 カ所:)

町名は主な活動拠点を指す。分類ごと、登録順。

サロン名	活動内容
【高齢者関係】 (90カ所)	
さき織りボランティアグループひめりんご /若葉町	さき織りを中心とした交流
あすなろ会 /富士見町	地域の方と知的障害者作業所とのゲートボールを通しての交流
サラおしゃべり会 /若葉町	茶話会や企画の開催
若葉町ボランティアグループ /若葉町	ミニデイサービス
さかえ友悠クラブ /栄町	茶話会。週代わりで昼食会、語らい、カラオケ、囲碁、ビデオ鑑賞、手芸
はなみずき /幸町	茶話会
健康麻雀友の会 /若葉町	健康麻雀
松中団地みんなのサロン会 /一番町	話し合い、茶話会
いきいきサロン /栄町	健康体操
福祉あすなろ会 /富士見町	散歩及び切手整理等
さかえサロン /栄町	ヨガ
さゆりの会 /幸町・砂川町	ストレッチ体操
たんぽぽの会 /泉町	太極拳、お茶会
麦 /西砂町	茶話会・手芸、お菓子作り
あら七あらっ八 /高松町	茶話会、おしゃべり
健康体操サークル /高松町	健康体操と学習
生き生き健康体操伸和会グループ /栄町	健康体操、お話
ひまわりの会 /富士見町	書道を通じた身体障害者のリハビリとケア
編み物サークル /若葉町	編み物
コスモス体操会 /若葉町*	健康体操
健康体操スロー会 /高松町	健康体操
すみれの会 /富士見町	健康体操
上砂体操クラブ /上砂町	健康体操
熟年男性料理の会 /幸町	料理
わかば麻雀くらぶ /若葉町	健康麻雀
B B P /富士見町	パソコン勉強会
みんなのサロン /富士見町	健康体操、茶話会、食事会
麻雀クラブ花ショープ /高松町	健康麻雀

創年クラブ /上砂町	体操、脳トレ、茶話会
ヨーガ 60 /錦町	60代の女性を中心とした初級ヨガ
こんぴら体操クラブ /砂川町	ウォーキング
HOT サロン /高松町	体操、ボランティアによる余興、おしゃべり
桜 /栄町	健康体操
南部健康サロン /栄町	健康体操
いずみ会いきいき体操サークル /泉町	健康体操
楽々太極拳 /一番町	太極拳、茶話会
健康体操クラブ /曙町	健康体操
エステート・暮らしの相談室 /一番町	喫茶、簡単な修理・家事のお手伝いを行う
トリム体操上砂スマイル /一番町	トリム体操
パレス会 /曙町	茶話会、脳トレ体操、手芸
プラザシティ健康体操クラブ /曙町	健康体操
上砂たのし会 /上砂町	踊り、おしゃべり、唄、お茶会
生き生きすみれグループ /若葉町	健康体操
トリム体操さくらクラブ /一番町	健康維持、体力増進のための体操
高松おしゃべりサロン /高松町	茶話会
キラキラサロン /砂川町	茶話会
よつ葉グループ /若葉町	健康体操
こんぴらサロン /上砂町	茶話会、編み物
すまいるサロン /曙町	食事会
上砂いきいき /上砂町	健康体操
檜山さんちのえんがわ /上砂町	茶話会・交流会
ほのぼの /砂川町 *	茶話会、野外活動
上砂フレンド /上砂町	生き生き体操
杜のつどい /若葉町	体操、茶話会
なかよしサロン /栄町	食事会
らくらくヨガ /若葉町	ヨガ
けやき台ものづくりの会 /若葉町	手芸
けやき台歌とおしゃべりの会 /若葉町	歌、おしゃべり
ふれあい喫茶 /一番町	茶話会、おしゃべり
紬 /曙町	手芸、体操、茶話会
けやき台生き生き体操教室 /若葉町	体操
ひまわり仲良し会 /上砂町	料理、脳トレ、歌、気功
3丁目の安田さん家 /柏町	おしゃべり
幸ふれあいサロン /幸町	食事会

たんぽぽ /上砂町	体操
けやき茶屋 /西砂町	茶話会
幸ストレッチ教室 /幸町	ストレッチ体操、リズム体操、筋トレ、茶話会
カフェえのしま /栄町	茶話会
ランチの会 /富士見町 *	食事会
コープタウン一番会 /一番町	体操
サロンこてまり /一番町	茶話会、脳トレ体操、ものづくり、唄
乙女の会 /砂川町	ストレッチ体操、手芸、料理
トリム体操にしすなクラブ /一番町	トリム体操
上砂 24 号棟体操教室 /上砂町	健康体操
トリム健康体操コスモス /一番町	健康体操
やすらぎヨガの会 /泉町	ヨガ
立川市いきいき体操C /若葉町	いきいき体操
新聞を読んで /柴崎町	茶話会
ロコトレ /若葉町	体操
ぴんぴん体操錦同好会 /錦町	体操
りんどうの集い /栄町	健康体操
三四体操会 /錦町	体操
やすらぎヨーガ /西砂町	無理なく無駄なく生活ヨーガ
遊亀の会 /幸町	体操
トリム体操フレッシュ /西砂町	トリム体操
ミントの花 /幸町	お茶会
健康ヨガさくらんぼの会	健康ヨガ
ピッコロ /砂川町 *	健康体操
生甲斐グループ /高松町 *	健康体操
やすらぎグループ /若葉町*	お茶会、カラオケ、ウォーキング

【子育て】(27カ所)

親子で学ぶサークル『ハーモニー』 /高松町、幸町、西砂町	読み聞かせ、歌、自由遊び、講師を交えた「わらべ歌」講習、遠足等
スキップママ /富士見町	体操・料理・クラフト・子育て講座開催等
パドマ /富士見町	全世代を対象とし、ヨガ、情報交換
子育てママテニスサークルTC /砂川町	茶話会テニス・読み聞かせ等
テニスサークルمامママ /錦町	茶話会
じゅんじゅん /曙町	アフリカダンス
親ワザ学びの会「ナチュラ」 /砂川町・柴崎町	親業の講習会や自主学習会

ヨガサークル Namasute /柴崎町	健康づくりのためのヨガ
スマイル・ママ /高松町	親子でできる体験
whoopee /柏町	お茶会、子どもの英会話、誕生会、エクササイズ
寅の子会 /幸町	情報交換、体操など
シャンティ /富士見町	ヨガ、情報交換
まんまるヨガ部 /若葉町	ヨガ、情報交換
パンプキン /幸町	子育てサークル
たちかわまみーくらぶ /富士見町	茶話会
テュットカフェ /富士見町	茶話会、子育て広場、ハンドメイド
レインボー/若葉町	おしゃべり、英会話
らびどらの会/幸町	子育ての情報交換会
ラビッツ/幸町	子育て情報交換、体操
レインボーマム/高松町	茶話会、親子ヨガ
ちびTATSU/幸町	子育て情報交換
KEYADAN/若葉町	ダンス、ストレッチ
けやきっずくらぶ/若葉町	茶話会、ママビクス
によろりん/幸町	子育てサークル
へびまる/栄町	茶話会、子育てに関する学習、体操
エスポワール/栄町	子育てサークル、情報交換など
ヨガサークルヨガ/西砂町	ヨガ

【その他】(3カ所)

ワークアウトF o r . M r s . の会/錦町	エアロビ、親睦会
「支えあいサロン」昼食会羽衣町 /羽衣町	調理実習、食事会
サンクタスもう一つの居場所/緑町	おしゃべり